艦隊の咆哮～鋼鉄の傭兵団～

正憲

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは二度の世界大戦を戦い抜き。世界中の海を駆け回り。そして…その世界に、不必要な力を持ちすぎた男が艦息となって転生し、二度に渡る世界大戦を戦い抜いた多くの部下と共に。もう一つの世界を駆け巡る物語である。

※１　あえて正直に言います。主人公は即退場確定の反則技あり、インチキありなんでもござれの化物要塞艦です。この小説を見る人はそれを考慮したうえでよろしくお願いします

※２この小説に加えたものを記載しておきます。

・超兵器は鋼鉄の咆哮２ＷＳＣ＋ＥＫ、３ＷＳＣ、ＷＳＧ、オリジナルから出します

・航空機は鋼鉄の咆哮＆世界の軍用機図鑑＆スカイクロラｅｔｃ……

・陸戦兵器は世界の戦車図鑑から抜粋。

・陸戦兵器と航空機にはオリジナルをベースにした独自設定の兵器類が登場します。

・各種武装・機関は、鋼鉄の咆哮＆世界の艦載兵器図鑑

・深海凄艦の艦型は世界の艦艇パーフェクトＢｏｏｋ・未完成艦名鑑から抜粋してます。

・元の世界で戦った枢軸と連合の人達が妖精となってやってくるかも？

・補助装置は鋼鉄の咆哮２ＷＳＣＥＫ＋ＷＳＧ等から抜粋

・ようこそ超兵器＆非現実、さよなら深海凄艦＆現実
・八咫烏の所属元はＡ．Ｏ．Ｓ．Ｃという多国籍複合軍事企業。
・ヘルシング・ドリフターズ・オメガ７・エスコン・ＣＯＤＭＷ／Ｂｏシリーズのネタあり
・特殊能力有り（八咫烏のみ）
・たまにキャラ崩壊
・ヒロイン（嫁）に飛鷹と隼鷹。
・オリキャラ艦娘（艦息）出すかもしれません
※３　戦闘スタイルは、アニメ水上スキー方式ではなくアルペジオ方式になります、深海凄艦の艦型式用意済み。
※４　追記事項とタグは、増えるかもしれませんご了承下さい。
【お知らせ】
・日本は過去に連合国に無条件降伏ではなく。沖縄陥落同時に一部陸海軍将校達による近衛・陸戦隊合同の終戦クーデターを敢行、ソ連参戦は起きず終戦講和にいたります。

目　次

本編設定集
設定集①～八咫烏用用語～※加筆追加有り　1
設定集②～戦略海上機動要塞艦「八咫烏」～　22
設定集③～八咫烏所属の航空隊・海兵隊・揚陸艇一覧～　32
設定集④～人物※加筆修正有り～　42
設定集⑤～日本と世界情勢…そして深海棲艦～　47
プロローグ
古き世界への別れと新しき世界への旅立ち　55
第1章　その世界に降臨した異形の鴉
第1話　65
第2話　71

本編設定集

設定集①～八咫烏用用語～※加筆追加有り

1章・艦艇編

1．八咫烏

この艦艇は、戦時中にその諸島で発見された〝未確認の超兵器〟であり。対究極超兵器に備えて、この艦艇を復活させる為の極秘計画”ノアの方舟”に基づいて建造を実施されていた艦艇。終戦締結時点では船体の７８％が完成しており、これ以上の建造の継続が危ぶまれていた。当時、軍事作戦局司令部から兵器評価試験・教導部隊へ転属していた川嶋正之中将は、この艦艇の発見と建造に関わっており、すぐさま上役に掛け合い表向きには兵器評価試験・教導部隊へ正式所属することを条件に本級１隻（八咫烏）のみの建造で合意に達し。教導艦隊所属の艦艇として配備になり、さらなる人材養成・練度向上を図る。

規模が従来の艦艇より超大型であるため長距離航海能力は高く、小規模から超大規模艦隊の旗艦任務に就けるよう設備と装備は最新型や次世代試作型が調えられている。火力も単独で超大規模艦隊戦闘の交戦から切り抜けられるように超重武装化に施せれており、汎用性が高い。特に幅６５０ｍの甲板には１２００ｍ級×４本、５００ｍ級×４本。合計８本の滑走路からなり、特に１２００ｍ級の飛行甲板ならＣ―１７のような戦術輸送機も離着陸可能である。またその武装は搭載機ばかりではない。艦体中央部や前後左右にはあらゆる兵器群が隣接し、対空・対艦・対潜からの守りも万全だった。枢軸軍側にかつて保有されていた。極悪凶猛にして最強兵器の上位を占める量子波動砲や反物質砲こそ搭載していないが、艦自体に搭載されている兵装と特殊弾薬もあり、艦載機の火力と地上戦能力を有する海兵隊合わせると非常に高い火力を発揮する。防御面にしても充実しており、主機と補機からの高出力エネルギーを流用した〝重力電磁防壁展開システム〟を展開できるが、従来の装甲版では重量増加により機動力

の低下は避けられないため。第三次大戦中に兵器・技術開発研究局が開発した特殊素材”セレリウム・ファイバー”を使用することにより、艦艇とは思えないほどの機動力と旋回性を発揮し、両舷に分散配置された多数のポッド推進器を駆動する。このポッド推進器はそれぞれ独立して操舵できるため本艦はその巨体に似合わずいかなる方向へも自在な機動が可能だ。

艦容積に大幅な余裕があるため、十分な装備と膨大な物資・弾薬、さらに他の乗員を休息出来るほどの充実した居住性を備えている。また艦の高度な自動化を図ることにより運用人員の縮小に移行しているので問題ない。

また各ウェルドックには、大型艦艇を係船・貨物荷役設備や簡易修繕ドックの機能を持ち合わせる。

さらに空母としての能力高く、大型機体運用を前提にした艦載機運用能力を持ち。多胴式航空戦艦型超兵器「ムスペルヘイム」、空母型超兵器「アルウス」、「アポロノーム」以上の艦載機同時発進能力を併せ持つ。本艦は咄嗟の短期戦から長期戦を前提にしているため問題はなく、このままの姿の状態ではないかと言われる程の完成度は高い。

艦内の奥にある部屋には、通称「開かずの間」が存在し、自分達をこの世界へと招いた遠因とも言える。全ての「B・A・F」が持つ装置「時空間転移」が装備されている。さらに噂に聞く、改ヴォルケン級3隻で世界を滅ぼすことが可能と言われているが、この「八咫烏」だけでなら世界を滅亡に追い込むのは容易く、本来の正式艦名は「ノスフェラト（真祖の吸血鬼）」と呼ばている。

艦艇性能は別枠に記載済み。

2・B・A・F（バトル・アーマード・フォートレス）

この物語に登場する八咫烏を含むすべての超兵器に対しての呼称であり、戦略核兵器に取って代わる。次世代型戦略級主要兵器として大国が開発し中核戦力である超大型機動要塞。小型なものは潜水艦や航空機、特殊艦艇。水上艦艇は巡洋艦、空母、戦艦、航空戦艦などが存在し。代替が可能な多くの人員によって運用できる戦力を目指し、バトルアーマードフォートレス（以下ＢＡＦ）を中核とした物量

を戦略の中枢に置くこととなった。既存の兵器は高い攻撃力の前に接近することすら出来ず、装甲と耐久力の前に攻撃も通用しない。高コストではあるものの代替と量産が可能で、第４次世界大戦においては新規開発や量産化された兵器が確認され、また極わずかだが陸上型も確認されている。これらの規模は小型クラスで数百メートルから。巨大なものは３～５キロに及び、当然として、維持費や建造費用が天文学的であり、ある組織の後ろ盾を得た大国以外では、ほぼ不可能である。

ただし八咫烏と同じく艦娘や艦息に転生した場合、維持費や建造費は該当しない。

なお以下の「Ｂ．Ａ．Ｆ」は、第三次世界大戦と第四次世界大戦を通じて各主要大国にて建造されているが。特に第四次世界大戦時においては、一部量産化に成功し実戦配備されているのが各戦域にて確認されており。さらに派生型や亜種型と言われる超大和級、Ｈ４４級、ミシガン級という量産型を第四次世界大戦で確認されている。

２．１第三次世界大戦にて出現した超兵器

超巨大高速戦艦「インテゲルタイラント」
超巨大ホバー戦艦「アルティメットストーム」
超高速巡洋戦艦「シュトルム・ウィンド」
超高速巡洋戦艦「ウィルベル・ウィンド」
超巨大高速空母「アルウス」
超巨大二段空母「ペーター・シュトラッサー」
超巨大潜水艦「ドレッドノート」
超巨大高速潜水艦「ノーチラス」
超巨大要塞戦艦「ストレインジ・デルタ」
超巨大高速潜水艦「アームドウィング」
超巨大光学迷彩戦艦「リフレクト・ブラッタ」
超巨大光学迷彩戦艦「　シャドウ・ブラッタ」
超巨大爆撃機「アルケオプテリクス」
超巨大ティルト・ローター爆撃機「ジュラーブリク」

超巨大双胴戦艦「播磨」
超巨大双胴戦艦「駿河」
超巨大双胴航空戦艦「近江」
超巨大双胴航空戦艦「甲斐」
超巨大ドリル戦艦「荒覇吐」
超巨大ドリル戦艦「月詠」
超巨大強襲揚陸艦「デュアルクレイター」
超巨大氷山空母「ハボクック」
超巨大氷山空母「八尺瓊勾玉」
超巨大レーザー戦艦「グロースシュトラール」
超巨大航空戦艦「ムスペルヘイム」
超巨大戦艦「リヴァイアサン」
超巨大戦艦「ヴォルケンクラッツァー」
超巨大戦艦「ルフトシュピーゲルング」
2．2第四次世界大戦にて出現した超兵器
超高速巡洋戦艦「ワールド・ウィンド」
超巨大高速潜水艦「ドゥールム・レムレース」
超巨大潜水戦艦「シュヴェルド・ヴァール」
超巨大潜水艦「ベレロフォン」
超巨大潜水艦「シュパーブ」
超巨大潜水空母「テメレーア」
超巨大潜水空母「ヴァルキリー」
超巨大潜水戦艦「ヴァンガード」
超巨大高速潜水戦艦「アウター・ヘイブン」
超巨大航空戦艦「テュランヌス」
超巨大双胴爆撃機「ランフォリンクス」
超巨大光学迷彩空中空母「バンシー」
超巨大光学迷彩空中無人機統制空母「リュナンシー」
超巨大攻撃空母「アポロノーム」
超巨大レーザー空母「プロメテウス」

超巨大地上戦艦「スレイプニブル」
超巨大三胴戦艦「出雲」
超巨大三胴戦艦「相模」
超巨大多砲塔航空戦艦「スサノオ」
超巨大高速重巡洋艦「ヴィントシュートス」
超巨大要塞艦「ベルグランデ・デルタ」
超巨大光学迷彩戦艦「アダマーズ・ブラッタ」
超巨大双胴強襲揚陸艦「テオドリクス」
超巨大戦艦「ナハト・シュトラール」
超巨大氷山空母「ニブルヘイム」
超巨大氷山空母「アイスインゼル」
超巨大氷山空母「富嶽」
超巨大突撃ドリル戦艦「リーズィヒ・ケーゲル」
超巨大航空戦艦「　ムスペルヘイム・ツヴァイ」
超巨大航空戦艦「ヨルムンガンド」
超巨大戦艦「　リヴァイアサンⅡ」
超巨大戦艦「ヴォルケンクラッツァー・ツヴァイ」
超巨大戦艦「ルフトシュピーゲルング・ツヴァイ」
超巨大戦艦「グロース・シュタット・ツヴァイ」
超巨大究極戦艦「超ヴォルケンクラッツァー・ツヴァイ」
超巨大究極航空戦艦「ルフト・ヴァルキュリア」
超巨大究極航空戦艦「天照」

3．深海軍（深海凄艦）

物語に世界において登場する、艦娘と対をなす存在。発生初期においては深海凄艦と呼ばれていたが、人類側からは識別呼称がしやすいように「深海軍」または「深海軍艦艇」という名で呼ばれている。

2章・兵装・弾薬編

1．61cm90口径5連装砲（最大仰角65°）

第三次世界大戦の終結に伴ない採用を断念した。80cm3連装軽量自動砲とM50〝オントス〟自走無反動砲と同様の砲身配置をベースに、61cm90口径の砲身5門を換装し敷き直そした

もの。発射速度は1門につき毎分１０発、５門で５０発の砲弾を発射できる高い発射速度を持つ。また全門同時射撃による砲塔部損傷を防ぐ代わり下部側の3門を砲撃させてからその０．５秒後に、残りの2門を射撃するシステムにしてある。（ＡＮ―９４の2点バーストを参考）

給弾方法はＭｋ３４（3インチ５０口径速射砲）をベースにした〝新型給弾装置ＭｋＶ〟を開発し八咫烏に装備される。有効射程は１９５キロ、最大射程は２３５キロ、またＭＳ―ＳＧＰ弾頭（誘導弾頭）を使えば射程３００キロに達する。主な弾薬は通常弾の他に仮帽付被帽付徹甲弾（ＡＰＣＢＣ弾）・粘着榴弾（ＨＥＳＥ弾）・成形炸薬弾（ＨＥＡＴ弾）・新型対空砲弾（ＡＢＭ弾）を装備。各1基ごとの弾薬定数量は1門ごとに特殊砲弾を含む。

述べ1門につき６６０００発（巨大な割にミッチリ）。1基ごとに合計３３万発の弾薬携行数を持ち、さらに１０式戦車同等の射撃システム（自動照準機能）を搭載。また主砲の発射炎を抑える為に他の戦闘艦艇にはないフラッシュハイダーが装備されている。

最大仰角を使用して射撃を実行した場合。一旦、砲弾は成層圏にまで上昇し、その後は隕石並みの破壊力が加算された状態で敵部隊に目掛けて降り注ぐ。

２．小型超電磁砲（最大仰角９０。）

実弾系統で最高の威力を持つ兵器だが・・・余りにも制作費が高騰になり廃棄処分間近の所を引き取り、八咫烏のみ搭載することにした。外見は連装型で口径は５１ｃｍもしくは５６ｃｍ砲に値し。威力は実弾試射のみで終了した砲台型（列車砲）８０口径１００ｃｍ（ドーラト）砲に匹敵すると言われている。この兵器は来たる地球に飛来する小惑星群を迎撃プラン、通称〝ユリシーズ計画〟に基づいて計画されていた兵器。

発射速度は、電圧出力を調整すれば毎分１５～２０発を発射でき。弾速はマッハ１５（過負荷時ならマッハ２０）、最大有効射程は４８０キロ、最大射程高度は外気圏（２０００キロ）に達する。俯角―０８。～仰角＋９０。

ただし弾薬は６１ｃｍ砲のように複数の特殊弾薬が無いため。砲

弾は４種類に限定されている。特に対艦攻撃に限定したフレシット弾を使用すれば、相手は原型を咎めないほどの損害と威力を与えるが、使用電力面で大問題になり、やむなく余力のある八咫烏へ搭載している。後日、これらのデータが役に立ち後に小型化の目処が立ち大型空母に配備可能な超電磁砲（６インチ単装砲に近い構造）が完成される。

３．１５５ミリ８０口径連装速射砲（最大仰角８５。）

ロシア製ＡＫ―１３０と同じ連装砲型を拡大発展させ。ＡＧＳ１５５ミリ砲を転用、搭載したもので、砲塔内は完全に自動化されておりステルス砲塔を備える、砲塔内下部には４つの装填ドラム（各１２０発）を備え、それらのドラムには各種弾薬を装填し合計４８０発の即応弾を有する。発射速度１２０発／分／門、最大射程６５キロ。

４．２５４ミリ８５口径連装速射砲（最大仰角８５。）

モデルは実在する。８インチＭｋ７１速射砲を拡大発展し。１０インチ砲（２５４ミリ）単装速射砲に換装したものでステルス砲塔を備える、砲塔内は完全に自動化されており砲塔内下部には４つのドラム（各９６発）を備え、それらのドラムには各種弾薬を装填し合計３８４発の即応弾を有する。発射速度８０発／分、最大射程７８キロ。

５．１２７ミリ９０口径連装速射砲（最大仰角８５。）

モデルはＯＴＯメララ１２７ミリ６４口径速射砲を拡大発展させたものを、さらにロシア製ＡＫ―１３０と同じ連装砲型にし新たに開発した９０口径を搭載したもので、砲塔内は完全に自動化されておりステルス砲塔を備える。下部には５つのドラム（各１０４発）を備え、それらのドラムには各種弾薬を装填し、合計５２０発の即応弾を有する。発射速度は１門ごとに毎分１８０発。最大射程は４４．０キロ。

６．４０ミリ８５口径４連装機関砲１０６―４型改（最大仰角９５。）

モデルは４０ミリ７０口径連装機関砲と２５ミリ９２口径４連装機関砲シーガードをミックスしたもの。使用可能弾薬は５種、対艦攻撃用のＡＰＦＳＤＳ（装弾筒付翼安定徹甲弾）、対空用のＰＦＨＥ（近接信管付榴弾）Ｍｋ．２、非装甲目標用のＨＥ（榴弾）などの他、対

艦／対地／対空両用の３Ｐ＝ＡＢＭ弾（Ｐｒｅｆｒａｇｍｅｎｔｅｄ Ｐｒｏｇｒａｍｍａｂｌｅ Ｐｒｏｘｉｍｉｔｙ Ｆｕｓｅｄ High Ｅｘｐｌｏｓｉｖｅ：時限信管付榴弾）、さらに徹甲弾、榴弾、焼夷弾の三つの機能を持ったＨＥＩＡＰ弾（焼夷徹甲榴弾）がある。このため４０ミリ機関砲が持つ即応準備弾は、１門につき１２４０発×４＝合計４９６０発の即応弾を持ち。発射速度は１門ごとに毎分５００発。最大射程は１６．８キロ。

７．対艦ミサイル・対空／対潜ミサイルＶＬＳ

それぞれＶＬＳ１基に各種誘導弾３２発を即応弾薬として装填し、ＶＬＳ下部弾薬庫からの再装填が可能である（ＥＳＳＭとＮＡＳＡＭＳ―３の２つのみ６４発装填可能）。

８．４連装型３０ミリガトリング砲（最大仰角９０。）

モデルはロシア製複合型ＣＩＷＳコルティクの発展型である。ＣＡＤＳ―Ｎ―２（パラシ）をベースに、米国製の射撃指揮レーダーと対水上光学指揮装置を搭載（対水上攻撃可能）、対空ミサイル運用機能を撤去した代わりに３０ミリ砲弾の予備即応弾薬携行数は約２．５倍に跳ね上げた。この３０ミリ即応弾薬数は１門につき７５００発、これが４門合わせて合計３００００発の弾薬搭載量を持ち合わせる（ＡＫ―６３０Ｍ１―２改も同様）。

使用ガトリング砲は同じくロシア製５４口径６銃身ガトリング砲（ＡＤＭＧ―６）、発射速度は１門ごとに毎分５０００発、有効射程４ｋｍ、最大射程８．１ｋｍ。

なお、ＳｅａＲＡＭ　４２連装型は３０ミリガトリング砲４門（上記）を撤去した代わりに、ＲＡＭ２１連装発射機を左右に１基ずつ搭載し、下部弾薬庫から全自動での再装填が可能である。

９．Ｌ―９０遠隔型３５ミリ連装機関砲

モデルはエリコン社製３５ミリ連装高射機関砲。第四格納庫のウェザー・デッキに設置され牽引式改造型で主に、対テロ・工作船を含む不審船・港湾警戒用を遠隔操作型に改造した機関砲。発射速度は若干向上し有効射程は変わらず。また緊急時には有人での射撃も可能である。

１０．ＮＡＳＡＭＳ―３（ＡＩＭ―１２０Ｃ―７）
地上発射型に転用したＡＩＭ―１２０Ｃ―７（アムラーム空対空ミサイル）こと、ＮＡＳＡＭＳの総合的な能力を再度改修した。ＮＡＳＡＭＳ２をさらに艦艇搭載型に転用し、これをスタンダードＳＭ―６とＥＳＳＭの中間を補完する目的で搭載。
中距離艦対空ミサイル（マッハ４．０　射程１００．０キロ）として運用。
１１．東側のミサイル、火砲系統の外見はそのままだが、中身は全て西側や日本製に換装済み。
これらの実弾系統には全て、新型近接信管（新型ＶＴ信管）・新型炸薬（装薬も従来の半分）・新型対空弾（新型ＡＢＭ弾）・砲弾一体化焼尽式薬莢（新型炸薬の恩恵）を搭載。
１２．ＡＢＭ弾対空砲弾
この弾薬は、主に６１ｃｍ砲・各種速射砲弾・４０ミリ・３５ミリ・３０ミリ機関砲弾用に使用されている対地・対空・対艦用の砲弾で、標的補足と同時に新型ＶＴ信管を使って空中での起爆位置をコントロール出来る。これにより内部に収められていた多数の重金属球体が高密度で目標前方に投射される（１千数百発から３万６千発のペレット弾弾頭は早い話、巨大なクレイモア地雷そのもの）。
１３．・特殊砲弾各種一覧表
８式Ａ型対地砲弾　１５５ミリ榴弾９６発装填
８式Ａ２型対空砲弾　２０３ミリＡＢＭ対空砲弾５６発装填
８式Ａ３型対地・対艦砲弾　２０３ミリＨＥＡＩＰ弾５６発装填
８式Ｂ型多目的弾　２０３ミリ０７式２型対空弾５６発装填
８式Ｃ型対艦・対地砲弾　１０５ミリタンデムＨＥＡＴ弾５６発装填
９１式改２型対艦砲弾

弾頭をＨＥＡＴ弾に改造
ＡＰＣＢＣ弾
６１ｃｍ砲弾／速射砲弾
ＭＳ―ＳＧＰ弾
６１ｃｍ砲弾／各種速射砲弾
ＤＡＲＴ弾　２５４
ミリ／１５５ミリ／１２７ミリ用対空誘導砲弾
新型反物質弾頭
６１ｃｍ砲弾へ転用（有効半径３キロ）
０７式対空弾（サーモバリック弾頭）　６１ｃｍ砲弾専用に改造（直径３００ｍの即席火球４２発出来上がる）
ＡＢＭ弾頭対空砲弾　６１ｃｍ砲弾／速射砲弾／４０ミリ・３５ミリ・３０ミリ機関砲弾
フレシェット弾　小型超電磁砲専用弾

３章・航空機編

１．Ｓｕ―６０Ω（オメガ）

Ｓｕシリーズの最新型であるＳｕ―５７とマクロスＺＥＲＯに登場するＳＶ―５１ａの外見を併せ持つ機体。ただしＳｕ―５７に搭載されている電子機器やエンジン、内装を全て西側系列に換装させた魔改造機体として進化した艦上戦闘攻撃機。ひと回りほど機体が大型化し、両翼のウェポンラックが１ヶ所増えている。特にカナード翼の他に４枚パドル式上下左右独立３次元推力偏向ノズルとステルス翼・双尾翼を装備している為か、圧倒的な運動性能に加え最高速、加速性能、旋回性能の全てが高水準であり、普通に旋回するだけで急角度の方向転換が出来る。

米軍が保有するＦ―２２やＦ―３５。日本空軍の最新鋭機、Ｆ―３「心神」やＦ―４「震電Ⅱ」にも引けを取らない、単座／複座型が八咫烏に配備している。

全長　２１．５ｍ　、全幅　１５．０ｍ、戦闘行動半径１８０

０ｋｍ。

２．Ｓｕ―４６ＭＦＮ／Ｇ

Ｓｕ―３４をベースにし、新たに４座型を開発した機体。主にオプション装備という〝後付け装備〟装着すれば、対潜哨戒機・電子戦機・警戒管制機・攻撃機をこなせる機体になった。機外搭載箇所１５箇所、ペイロード９．５００ｋｇ（９．５トン）

３．ＦＦＲ―４４ＩＢＰＳ

米国の軍需企業が開発した複座型電子偵察戦闘機で、米海軍が保有するＦ／Ａ―１８Ｇの後継機として制作されたが。最終決定候補から落選し、企業側が実用評価試験機体という〝お題目〟で調達し予備戦力と補修部品を合わせた３０機が八咫烏に搭載されている。

４．Ｐ―１　ＡＷＡＣＳ

日本が保有する〝Ｐ―１哨戒機〟を指揮空中管制機仕様に改修されたタイプで、八咫烏でも仕様出来るように魔改造された機体。通信衛星がなくともワイヤレス通信を活かしての無人機運用・データリンクや艦艇運用時の遠隔操縦、通信管制をアシストが可能。

５．Ｔｕ―２２Ｍ５

通称〝バックファイア〟と呼ばれるＴｕ―２２Ｍ３爆撃の発展型。この機体も八咫烏でも離着艦出来るように魔改造された爆撃機。ちなみに改造により、最大４発のＫｈ―２２／Ｋｈ―３２　長距離対艦ミサイルを搭載することが可能である。戦闘行動半径３６００ｋｍ、ペイロード１８．０００Ｋｇ（１８．０トン）

６．ＥＰ―１

上記のＰ―１ＡＷＡＣＳと同様に、電子戦機版Ｐ―１を艦載機仕様した魔改造機体。

７．ＲＱ―４Ｓ

ＲＱ―４を艦上機使用の機体として新たに開発された艦上型無人偵察機、特徴は全体的に性能面が１５％性能向上、新型電子機器の入替、新型フライ・バイ・ワイヤ技術の導入による操縦性能向上、半機体内蔵式増加燃料タンクを２箇所搭載が可能になり航続距離が８０

００Ｋｍ向上した。

８．ＭＱ―１１Ｂ

上記と同様に艦上機使用の機体。無人戦闘攻撃機〝アベンジャーＣ〟をベースに新規開発した艦上型無人戦闘攻撃機、特徴は〝ＲＱ―４Ｓ〟と同一だが機体性能向上により余力が出来た為。兵装搭載箇所が２ヶ所増設、貨物ペイロードが２５％向上した。

９．Ｖ―１２０（４発重輸送機）

Ｃ―１７輸送機をひと回りほど小型化し、前後左右にエンジンを１基ずつ装備した。ＳＴＯＶＬ型輸送機、乗員６名、貨物搭載量７８ｔ、輸送人員９６名、機外吊り下げ搭載なら５０ｔまで吊り上げ可能。

１０．ＡＲ―４０５（重艦上攻撃機）

Ａ―１０とＳｕ―３４を掛け合わせた機体で、縦列複座、デルタ双尾翼、機体後部には並列化で搭載されたジェットエンジン２基をさらに２基追加。計４基のジェットエンジンを装備する重艦上攻撃機。

固定式航空機関砲として４０ミリ機関砲２門、機外搭載箇所１７箇所、ペイロード１３．５００ｋｇ（１３．５トン）、さらにオプション装備で搭載箇所が減る代わりにガンポッド型５７ミリ機関砲を２基を携行可能。

１１．ＭＶ―８８戦術中型輸送機

ＭＶ―２２の後継機、次世代型ティルトローター機Ｖ―２８０をベースに開発したＳＴＯＶＬ機体で、機体後部にはエンジンを１基を搭載する。主に人員・物資輸送、強襲・ヘリボーン作戦として運用。乗員３名、輸送人員４０名、ペイロード（機外牽引）：２８ｔ（２２ｔ）、機内スペースには装甲車両〝グルカ〟２両搭載可能。

１２．Ｍｉ３５―Ｍｋ７改

元は南アフリカでハインドを大幅な改修を施た。Ｍｉ３５Ｍｋ３（スーパーハインド）を更に拡大発展版であり機体自体は変わらないがローター、尾翼、更にＦＣＳ（火器管制装置）と兵装搭載量が強化された。メインローターはＫａ５２と同じだか各１枚増加、尾翼は単垂直双尾翼、エンジンを新型に換装、機関砲も火力の高い３０ミリマウザー〝ＭＫ３０機関砲〟に換装してある。お陰で機動力、火力、人員・搭載量、航続距離が各２割増

し。更に、現存するあらゆる東西の兵装が搭載可能である。主に人員・物資輸送・強襲・ヘリボーン作戦として運用。乗員２名、輸送人員１４名、ハードポイントを計６基装備。

１３．ＳＮＦ―１０２Ｄ

ＮＦＨ―９０をベースに開発された次期多用途ヘリ。メインローターを二重反転ローターに換装、ステルス機体を意識し。ＭＨ―６０Ｍと同等の電子装備と外部搭載システム（ＥＳＳＳシステム）を装着した多目的任務に適応した機体になった。主に人員・物資輸送・強襲・ヘリボーン作戦として運用。乗員２名、輸送人員２８名、ハードポイント４基、ペイロード（機外牽引）：８ｔ（５．５ｔ）。

１４．ＭＨ／ＡＨ―６Ｚ　ＭＥＬＢ

お馴染みのリトルバードやキラーエッグの愛称を持つ機体で、ＡＨ／ＭＨ―６Ｍ　ＭＥＬＢをさらに能力向上をさせた改修型。このタイプでは完全に相互運用性が付与され、Ｍ型よりも限界までの改良を施された、エンジンや操縦性能、航続距離の性能向上、また僅かであるが東側の武装も搭載可能にしてある。

１５．ＭＶ―３５ＡＥＷ

ＭＶ２２をＳＴＯＶＬ仕様に進化した機体を、空中警戒機として運用。機体整備・補修部品の一元化を図るため、この他３種類の派生型機体が存在する。

１６．ＭＶ―３５Ｍ／Ｒ

上記と同じ機体で、対水上・対潜哨戒機として運用。また数機ほど医療任務型に特化した機体を少数保有。

１７．ＭＶ―３５Ｍ／Ｓ

上記と同じ機体で、戦闘救難機・物資輸送や多目的仕様の機体として運用。

１８．ＡＦＨ―７０Ｅ―２Ｄ

機体はＭｉ―２８〝ハボック〟・ＡＦＨ―０２Ｂ〝ヘルハウンド〟をベースに次世代型戦闘攻撃ヘリとして開発された機体である。機体構造はテイルローターを持たない「ノーター」方式の機体でローターで、メインローターはＫａ５２と同じ二重反転プロペラで、メイ

ンローターは1枚ずつ増加、尾翼は双尾翼、エンジンを最新型に換装。更にＡＨ―６４Ｅと同等のＦ（火器管制装置）Ｃ　Ｓと兵装搭載量が強化され全天候・夜間戦闘対応型。ベースとなったＡＦＨ―０２Ｂ〝ヘルハウンド〟並みに近いサイズをもつ。大型のスタブウィングにハードポイントを計６基装備。また胴体部分にもウェポンベイが装備する。最大速度４７２ｋｍ／ｈ、航続距離１６８０ｋｍ、戦闘行動半径６８０Ｋｍ、武装は〝ヘルファイア〟対戦車ミサイルのみなら最大３０発携行し、火力の高い３０ミリ機関砲〝マウザーＭＫ３０〟に換装。あらゆる東西の兵器（ロケット弾・空対地ミサイル・爆弾）を搭載する。

１９．ＪＡＳ３９Ｇ（単座）／ＪＡＳ３９Ｈ（複座）

グリペンＮＧの艦載型を基にさらなる改修を施した発展型。垂直尾翼を双翼、胴体下面中央と両主翼付け根にウェポンベイを設置し、ステルス性と超音速巡航能力を向上しながらも、翼幅約１０ｍ、全長１７ｍと大型化する。機体性能を落とさず軽量化を果たしたグリペンＮＧの成果を踏まえ、当初のコンセプトからは離れて機体を大型化した。これにより最大離陸重量は１７，８００ｋｇ超と、ほぼＦ―１６ＸＬ相当の規模にまで拡張されている。またエンジン性能の向上により機動力と航続距離が１５％向上した。戦闘行動半径１４５０ｋｍ。

４章・戦闘車両

１．メルカバＭｋ．５

日・独・イスラエルの３国が共同開発した第６世代型の戦闘車両。現存するメルカバＭｋ．４をベースに車体前部に搭載されているエンジンを後部側へ移設し、車体を１．８５ｍ延長した従来型の戦車で、さらに１０式戦車の電子機器が搭載された戦闘車両。対テロ作戦や市街戦で培ったイスラエル、戦車大国ドイツ、技術大国日本、この３国が持つお互いの特徴や外見、利点・欠点、武装、機動力、電子装備や重量を補うように組み合わさった戦車で、主砲を含む登載火器を独自に換装する事も可能。

さらに派生型としては、戦車回収車、装甲工作車、架橋戦車がある。

性能

重量　６２トン（モジュール装甲搭載時７０ｔ）

乗員　４名

全長　１１．０ｍ

機関　パワーパック型１２気筒ターボチャージャー（１８００馬力）

速度　６５キロ

武装（必要に応じて交換又は、増設可能）

１２０ミリ５０口径滑腔砲×１

１２．７ミリ重機関銃×３（遠隔操作可能）

７．６２ミリ機銃×１（戦車同軸機銃）

後装式６０ミリ迫撃砲（近接戦闘用）

アクティブ防護システム（トロフィーシステム）

２．ＢＭＰ―Ｔ１７

現存するＢＭＰ―Ｔに準じてメルカバＭＫ．５の車体を流用しＢＭＰ―Ｔの砲塔を組み合わせ、さらに１０輪駆動型重装甲車として設計開発。この砲塔に装備されているを武装はすべて換装し、幾つかの装備を追加したものである。装甲車部隊・水陸両用部隊・空中機動部隊の近接火力支援、戦車を援護しながら市街戦における死角から歩兵による対戦車攻撃に対応する能力をもつ。

機関砲および重機関銃による制圧射撃の他、自動擲弾発射機や後装式迫撃砲を用いた近接制圧によって敵歩兵を掃討し、堅固な建造物や掩蔽陣地に立て篭もる敵に対してはミサイルによる長距離からの正確な攻撃を可能としている。なお、車両後部のカーゴベイは本来は貨物搭載スペースであるが、限定的ながらも車体後部内に1個分隊（１０名）歩兵を収容する能力はあり、「装甲兵員輸送車」もしくは「歩兵戦闘車」としての運用は可能である。

性能

重量　５０トン

乗員　４名＋１０名

全長　１２．６ｍ
機関　パワーパック型１２気筒ターボチャージャー（１８００馬力）
速度　７２キロ
武装
連装型〝マウザーＭＫ３０〟３０ミリ機関砲または３０ミリガトリング砲×１（砲塔中央部オーバーヘッド式右側）
１２．７ミリ重機関銃Ｋｏｒｄ×１～２（機関砲収納上部）
後装式１２０ミリ重迫撃砲（砲塔中央部オーバーヘッド式左側）
対戦車ミサイル４連装発射機×２（砲塔側面左右）
４０ミリ擲弾銃Ｍｋ４７×２（車体前面）
７．６２ミリ機関銃×２（車体前面、擲弾銃と組み合わせて運用）
アクティブ防護システム（トロフィーシステム）

５章・艦艇補助装置・航空設備・装甲

１．ＡＭＤＲ―Ｓ／Ｘ（ＳＰＹ―６）Ｍｏｄ３２
米国軍事企業が開発した第７．５世代型多機能レーダーで、実用評価試験型１基を搭載しデータ収集を兼ねて八咫烏に配備している。米海軍が配備する多機能レーダーよりもはるかに性能を発揮する。

２．ＮＡＡＷＳ　Ｍｏｄ３３（タレス対空戦闘システム）
上記と同様に、欧州企業が開発した新型対空システムで米国のイージス・システムに類似した装備をしているもので、しばしばミニ・イージスとも呼ばれている。

３．重力電磁防壁展開システム
戦時中に開発されたシステムと言われているが、実際は超古代兵器技術の恩恵とも言われていた。これは敵味方の艦艇すべてに搭載し、組織設立後にはさらなる改良を行ない完成した防壁システム。これは主機と補機から供給されている出力を一部、艦艇全体的を覆うように防壁を展開する。
利点は、あらゆる実弾・光学兵器からの攻撃が防壁システムによって阻まれ物理的なダメージを回避できるが、欠点は防壁システムダ

メージの蓄積量が１００％を超えると防壁システムが崩壊し、再度使用する場合は最低数時間を有する。

４．アクティブ・ステルスシステム

従来の傾斜装甲にステルス塗料ではなく、最新型のステルス傾斜装甲板を新たに開発。これによりレーダー反応９８．５％カットするが、コレも余りに開発費用がかさみ続けた結果、八咫烏のみに搭載された。

５．　新型給弾装填装置ＭｋＶ

３インチ連装速射砲Ｍｋ３３をベースに、砲後部の旋回砲架上にはそれぞれ５発の即応準備弾を格納する回転式弾倉が設けられて、これは６１ｃｍ砲という大口径砲でありながら従来の５～６倍の発射速度を有している。さらにこれを可能としたのが３インチ砲（７６ミリ）に使用されたロータリー式自動装填機構である。なお八咫烏に搭載されている給弾装置ＭｋＶはこの装置である。

６．慣性無効化装置

宇宙空間において、無重力等を緩和させるために搭載された装置。

７．ＳＭＣ（統合戦闘管制指揮所）

八咫烏独自に設置した部署で、ＣＤＣ＆ＣＩＣ（戦闘指揮所）とＣＡＴＣＣ（空母航空管制所）、ＬＦＯＣ（揚陸部隊作戦所）を３つ統合し発展させた管制所である。

８．熱光学迷彩

Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ社内にある、兵器開発研究局が開発した新型熱光学迷彩装置。

９．ＳＳＤＳ　Ｍｋ．１８（艦艇自衛システム）

ベースはＳＳＤＳ　Ｍｋ．２から段階的な改良と進化、さらにより多くのサブシステムをとりこむことで、より包括的な次世代統合戦闘システムとして開発されることとなっており、各センサー・武器システムは艦と統合されて、システム艦として構築されている。

また最新型と言われているＭｋ１８は現在、八咫烏に搭載されている。

１０．対超兵器ノイズキラー

元々は、高緯度地域に発生する太陽黒点（ソーラーマックス）から放たれる太陽の荷電粒子による。磁気嵐を相殺するために開発された装備を対超兵器戦に転用したもの。

１１．広域電磁パルスシステム

有効半径は３０キロと短いが、現代艦艇が装備する電装システムやミサイルの電子回路を瞬時に破壊・再起不能にさせることが可能だが、旧式装備を保有する艦娘や深海棲艦には効果が薄い。再充電・再使用にするのに９０秒の時間がいる欠点をもつ（ワイルドスピードアイスブレイクより抜粋）。

１２．新型リニアカタパルト

米国が開発したリニアカタパルトで、２５秒に１機の感覚で艦載機の発艦が可能。また緊急時には、空間全体に電磁界を発生させる形での「４Ｄリニアカタパルト」としての運用が可能で、非常に高い加速で艦載機を最大１８秒に１機の感覚で連続で射出することが出来るようになっている。ただし膨大な電力を必要としているので、これを使用する場合。重力電磁防壁展開システムを解除する必要があるため、非常時以外では使われない。

１３．次世代型先進着艦拘束システム

ジェラルドＲ．フォード級空母に搭載されているシステムで、八咫烏の世界では現代より技術が発達しているため。このシステムより数世代先のシステムが開発され、八咫烏や新型空母に搭載されている。

１４．装甲正式名称：６１ｃｍ対物特殊合金装甲鋼板

甲板＆ａｍｐ；舷側　パネル式複合装甲＋特殊合金装甲鋼板

このパネル式複合装甲ならび特殊合金装甲板は兵器開発・技術研究局が開発した多層式複合装甲版で、パネル式複合装甲の構造は、２枚の５５ミリ特殊合金装甲鋼鈑の間に４０ミリ複合装甲１枚を挟み込んだものを１層（１５０ミリ）とするが。構造上、パネル式な為に単体または複数でも使用が可能で、これを５層重ね合わせて更に特殊鋼鈑同士の間に複合装甲を施す（実質上９層）。これにより重厚な防御

力を誇り、1ランク上の砲弾にも耐えられるようになった。特に艦橋構造物周辺（６１０ミリ）にはこれを3層追加して（実質上５層）装甲を施している。但し第2艦橋から上部は５００ミリ（実質７５０ミリ相当）の装甲しかない（通常艦艇では装備不可能）。

次に特殊合金装甲鋼板は、鉄の１２００倍の強度と１／１００の軽量を持ち。そして地下や海底基地の建設に最適な特殊素材”セレリウム・ファイバー”をベースにチタン合金を組み合わせた特殊装甲鋼板。これらの装甲を組み合わせた結果。物理的な戦闘では引けを取らないし、高い機動力と旋回性を有する。

なお、艦尾側にある。ウェルドック用のハッチは、上下共に独立型ハッチ2枚でステルスと被弾傾斜を意識した設計。４１ｃｍ装甲（４６０ミリ相当）を持ちこれを艦橋構造物と同様に、2層（実質3層）重ね合わせている。

当然、舷側装甲も６１ｃｍ装甲に複合装甲を2層を施す（実質3層＝４５０ミリ加算）

6章．組織・諸島・洋上基地・部隊編

1．～A．O．S．C～（アトラス・オーシャン・セキュリティ・カンパニー）

独立遊撃部隊解散後に結成された。一大多国籍複合軍事企業。環太平洋圏や欧州、中近東、アフリカを中心とした、世界最大の総合企業。独自に海運業、造船業、物流、重工業、そして直接的な戦闘のみならず、軍事兵器の整備・開発や兵站・物資調達、戦闘訓練など、軍事・兵站に関わる様々なＰＭＣ業務を営む。

欧州（オランダ）に本拠地を設立し、北米や南米、中近東、アフリカ、欧州や東欧に支部を持つが、極東では日本とシンガポールの二ヶ所しか拠点を置いていない、社員・幹部は共にその前身部隊からの出身で構成しており設立後に新規参入した者達も在籍しているが、規模・兵力・資金・練度・経済運営あらゆる面では世界各国の正規軍・経済を遥かに上回る。後に第四次世界大戦”世界解体戦争”において主戦力を担う。

２．兵装技術・評価試験教導指導局

兵器開発・技術研究部門、軍事作戦局隷下で編成した共同部門の１つで、研究局が開発した兵器・装置類や企業側からの機材はすべて、ここに所属されている艦艇や車両、航空機に搭載され実用評価試験を行う。八咫烏もこの部署に配備されている評価試験教導部隊。通称〝教導軍〟は表向き、兵器実用評価試験の他に技術指導・アグレッサー部隊等を務める部隊で、実態は軍事作戦局総司令部直轄の緊急即応機動展開軍司令部に組み込まれており。司令部の要請があれば真っ先に最優先で投入される精強部隊であり、中には技術研究開発した最新型の兵装が評価試験という名目で装備される部隊だが、多少ながら型破りな方法も少なからず存在する。同〝教導軍〟に所属されている部隊は、それぞれ第１～１８教導艦隊（各６個戦闘群編成）、第１～１８海兵教導軍（各３個海兵旅団又は２個海兵師団編成）、第１～１２教導航空軍（各３個師団編成）を保有する（ＤＥＶＧＲＵや富士教導団みたいな存在）。

３．緊急危機対応機動即応軍

本社軍事作戦局総司令部の直轄指揮下にある緊急危機対応作戦部隊で、Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃの切り札ともいえる。

４．軍事作戦局

Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ直系組織、軍事作戦全般を取り仕切る部門、最終的に現地部隊では対応出来ない場合に備えて、軍事作戦局総司令部指揮下の部隊「緊急危機対応機動即応軍」とその隷下に属する兵器評価試験・教導部隊が組み込まれている。

５．兵器・技術開発研究局

Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ直系組織、主に軍需・民間企業向けに装置や兵器開発研究する部門の１つで、民間企業と合同で開発こともある。

６．Ｗ．Ｓ．Ｍ．Ｉ（ワールド・シップ・マネージメント・インダストリー）

Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ直系組織、主に海運企業向けの艦艇や正規軍向けの戦闘艦艇を建造・修繕をする造船業と世界規模の海運業を営む、中でも大型艦艇向けとして超大型コンテナ船を改造した〝工作艦〟等の

補助艦艇、浮きドック（１００ｍ型）を建造する企業で、八咫烏の建造や修繕・改修・補給にも関わっている。

７．スヴァルト・アール・ヴァヘイムル諸島（架空の諸島）

かつて八咫烏を発見し、建造された島。第三次世界大戦の真っ只中に突如出現した諸島で、規模はノルウェー北部にあるスバールバル諸島と同等の広さをもち、大小１２の島で構成されている。位置はインド洋南部フランス領南方ケルゲレン諸島の北西部（南緯４０。　東経６０。）、複数のフィヨルドと浸食海岸、標高４０００ｍ級の山々がそびえ立つ天然の要害で、兵装技術・評価試験・教導局がそこに目をつけて。浸食海岸や崖をくり抜き地下基地を建築し教導局所属の戦力をここに配備し、複数の飛行場と港湾施設を洞窟内や地下、さらに海底基地を設けている。特に八咫烏専用ドックは一度、洞窟内へ進入しその後エレベーターにてドックがある地下施設へ降ろす仕組みになっている。

その島は、別世界から転移してきた〝地図に存在しない諸島〟という暗黙の了解に基づき、Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃが唯一管理する〝領土〟でもある。その諸島全体と周辺海域の海底には、ほぼ無尽蔵の天然資源（鉱物資源・石油・天然ガス・レアメタル）が眠っており〝資源戦争〟のという戦略上、最重要拠点にもなりかねない、未だ現在も採掘中。

８．　Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ　制服

艦艇用制服や作業服は、米海軍やドイツ連邦海軍。戦闘用迷彩服はロシア連邦軍を参考にしている。

１種　紺色
２種　白色
３種　紺色作業服（兵・士官）
４種　濃紺作業服（幹部・艦長）
５種　洋上デジタル迷彩
６種　デジタルフローラ迷彩２０１０年型・ＶＫＢＯ迷彩（迷彩戦闘服）

設定集②～戦略海上機動要塞艦「八咫烏」～

戦略海上機動要塞艦　　八咫烏（やたがらす）
同型艦　なし
型式　　ＢＡＦ―ＸＢＳＦ０１
旧所属、元独立遊撃艦隊所属・第一遊撃戦隊「ケルベロス隊」四番艦。
現所属、多国籍民間複合企業「Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ」兵器評価試験・教導局、教導艦隊総司令部付属。
全長　　１７００．０Ｍ
最大幅　　６５０．０Ｍ
乗員
艦艇乗組員　　２万９６００名
航空隊　　３万２９５０名
海兵隊　　３万２８００名
飛行甲板　フルフラット多層式甲板型＋艦船と同じ一体型
飛行甲板幅　　６００Ｍ（一部、左右最長２５０Ｍ～最短２２０Ｍ）
格納庫（３・４段目格納庫）　１０８０ｍ（１５００ｍ）×２８０ｍ（５６０ｍ）×３０ｍ
・一部船首側二段飛行甲板装備　　１２００．０Ｍ＋５００．０Ｍ
・　格納庫は全部で４段あり、２段目が下段飛行甲板と直結。
・各格納庫は全て大型機体にも対応可能な全高を持ち合わせる。
・飛行甲板は全部で８本。上部飛行甲板Ａ～Ｄ甲板（着艦用アレスティング・ワイヤー４ヶ所設置）、下部飛行甲板Ｅ～Ｈ甲板で構成する。
Ａ～Ｄ甲板　１２００ｍ×１４０ｍ（Ｃ―１７離着艦可能）
Ｅ～Ｈ甲板　５００ｍ×１４０ｍ
・Ａ．Ｄ．Ｅ．Ｈ飛行甲板にはアングルド・デッキが各４箇所に設置されている。ただしＥ．Ｈ甲板のみ左右に２箇所ずつ設置されている。

全高　４２０．００Ｍ（船底から艦橋までの高さ）
海面上からマストまでの高さまで２９５．００Ｍ（満載喫水線上からの高さ）
基準排水量　６５５０万９５００ｔ
満載排水量　１億２５００万８０００ｔ
喫水　１２５．００Ｍ
・主機　ＧＥＳ社製重力反応融合炉　２８基（各出力　３５万馬力）
ＧＥＳ社製次世代型反応炉推進タービン　２４基２４軸　伝導率５４％　合計４４８％
出力　３２２９万１３３７．１２ｋｗ
馬力　４３９０万４０００馬力
・補機　ＧＥＳ社製熱核融合炉　１６基（各出力１３万７千馬力）
出力　１６１万２２１３．２６ｋｗ
馬力　２１９万２０００馬力
・推進装置
２重反転８軸型サーフェース・プロペラ　船体各８基　計２４基
超伝導電磁推進　２４基
多方向推進システム（スラスター併用）　左右各１８基　計３６基
１２段階式ギア＋スロットル型速力調整可能
・速力
通常　１２５．００ｋｔ
超伝導電磁推進使用時　１８０．００ｋｔ
・船体構造
書類上や外見上では特殊大型戦闘艦艇として記載されているが、実際は三胴型艦艇＋ダブルＭ型船体という特殊船体と超大型ステルス空母（マクロス級１８５２ｍ）ベースに開発・拡大発展させた構造になる。これにより船体長・船体幅が広くなった恩恵もあり設備構造

や兵装拡張の幅が広がった。本来なら先端から後端までの一体化を予定していたが急遽、設計変更した。

・航空用設備

エレベーター　５２基

多目的エレベーター　１８基（６０ｍ×６０ｍ　Ｂ―５２Ｈ級対応）

新型リニアカタパルト（緊急時４Ｄカタパルト起動可能）

６０基（内１２基は大型機用）

超巨大格納庫　４段

・航空機搭載機数　（最大搭載数）

１６００機＋完成予備機２００機（４０００～４８００機）

・車両甲板　２５層（７００ｍ×１５０ｍ×１０ｍ）

特徴に記載

・ウェルドック　７カ所

全長７００ｍ×幅９０ｍ（１．２．６．７番は６０ｍ）×全高９５ｍ

上記のウェルドックはすべて、スーブル級（全高２１．９ｍ）やミサイル艇、大型艦艇に対応可能。

・搭載艦艇

スーブル級改揚陸艇　４０隻

大型揚陸艇　ＴＬＣ（ＴＬＣＭｋ４改造型）Ｍｋ１０　２４隻（搭載量３８０ｔ）

Ｍｋ６改　哨戒艇　２８隻

ストックホルムＭｋ．２級コルベット（ミサイル艇）８隻

この他にＲＩＢ４０隻、ＲＰＢ３２隻（河川哨戒艇）、ＲＣＢ型　河川制圧艇　４０隻ｅｔｃ……を車両甲板へ保管が可能。

・艦橋設備　（ただし独自にアレンジしてある為、外見は別物）

前部　日本型戦艦用前艦橋

中央部　日本型戦艦用前艦橋

後部　日本型戦艦用後艦橋

航空管制用艦橋　Ｑ．Ｒ級空母参考（後部艦橋と別枠）

その他周辺に艦橋を７箇所増設（航海用並びに射撃指揮管制所）

・レーダーシステム　探知距離

ＡＭＤＲ―Ｓ／Ｘ（ＡＮ／ＳＰＹ―６）　Ｍｏｄ３２

レーダー探知距離１８００キロ、ただしイージスシステムの代わりにミニ・イージス（ＮＡＡＷＳ）が搭載されている。

この他に従来型システムより、次世代型各種レーダー・システムの先行量産試作型を搭載している。

・同時探知目標（２００→３０００）

同時攻撃目標　（２０００まであらゆる同時攻撃が対応）

但し・・・上記のレーダーとＬシステムを併用すれば、対水中・対水上の目標物を正確に捕捉・攻撃可能。

・艦艇装甲割合

飛行・船体甲板　６１０ミリ装甲＋１００ミリ特殊コンクリート＋複合装甲３層（実質５層）＝１３００ミリ

舷側装甲　６１０ミリ装甲＋複合装甲３層（実質５層）＝１２００ミリ

司令部艦橋装甲　８００ミリ装甲＋複合装甲４層（実質７．５層）＝１９４５ミリ

艦橋構造物周辺　６１０ミリ装甲＋複合装甲３層（実質５層）＝１２００ミリ

第二艦橋上部周辺　５１０ミリ装甲＋複合装甲２層（実質２層分）＝７６５ミリ

ウェルドック用ハッチ　４１０ミリ装甲＋複合装甲２層（実質２．５層）＝７２５ミリ

・武装配置

要塞戦艦なので、前後左右７ヶ所と中央９箇所の計２１箇所に武装設置されてあり、両舷側には搭載箇所によるが２段～３段構えの武装配置、中央前後にはＶＬＳに２段～３段の武装配置、そして中央部中心には最大５段～７段構えの武装配置になる。これにより、全方位

並び急角度からの対空防御が可能。

・搭載兵装一覧

1．61cm90口径5連装砲　32基（160門）
2．254ミリ85口径連装速射砲　268基（536門）
3．155ミリ80口径連装速射砲　348基（696門）
4．127ミリ85口径連装速射砲　464基（928門）
5．40ミリ4連装機関砲106―4型改　548基
6．小型超電磁砲（レールガン）　36基
7．対艦ミサイルVLSⅢ　700基
8．対空／対潜ミサイルVLSⅢ　800基
9．Sea RAM―block2　42連装型（21連装2基）　462基
10．RBU―6000SⅢ　18連装型212ミリ汎用ロケット砲　144基
11．680ミリ8連装超音速多目的誘導魚雷　18基
12．SCLAR―H　118ミリ16連装多目的発射機　128基
13．30ミリCIWS　4連装型ガトリング砲　896基
14．30ミリCIWS　AK―630M1―2改　468基
15　L―90Ⅲ遠隔操作型35ミリ連装機関砲　368基

これらの実弾系統には全て、新型近接信管（新型VT信管）・新型炸薬（装薬も従来の半分）・新型対空弾（新型ABM弾）・砲弾一体化焼

尽式薬莢（新型炸薬の恩恵）を搭載。

・各種ミサイル一覧

1．対空ミサイル

スタンダードＳＭ－３ブロックⅡＢ（対弾道ミサイル）

スタンダードＳＭ－６ブロックＩＡ（対航空機・対艦ミサイル・巡航ミサイル）

ＮＡＳＡＭＳ－３（対航空機・対艦ミサイル・巡航ミサイル）

ＥＳＳＭ（対航空機・対艦ミサイル・巡航ミサイル）

ＡＳＴＳ　ｍｏｄ６（対衛星用）

2．対艦・対地ミサイル

ＳＳ－Ｎ－２６改　射程３００Ｋｍ　炸薬３００Ｋ

ＳＳ－Ｎ－３０改　射程２８００Ｋｍ　炸薬１０００Ｋ

極超音速巡航ミサイル「ツィルコンⅢ」射程８００Ｋｍ、炸薬６５０ｋ、マッハ１２．０Ｍ

ＳＳ－Ｎ－３２改２　射程２０００Ｋｍ　新型サーモバリック弾頭改造型

ＳＳ－Ｎ－３２改３（多弾頭）　射程８００Ｋｍ　小型弾頭空対地ミサイル３２発搭載

3．対潜ミサイル

９１ＲＴＥ２（１２式改２甲型短魚雷）射程５０Ｋ

１１式ＭＶＬＡ（１２式改５丙型短魚雷１２発装填）　射程３５キロ

4．魚雷一覧

１５式超音速魚雷（６８０ミリ）　雷速マッハ５（時速６１２０ｋｍ）

１２式両用誘導魚雷（６８０ミリ）　雷速７０ノット

１８式多弾頭両用誘導魚雷（３２４ミリ１２式改５丙型短魚雷１６発装填）　雷速７２ノット

１７式多弾頭自走機雷（Ｍｋ７６　Ｍｏｄ５　ＩＳＬＭＮ８発装填）　雷速６５ノット

対魚雷迎撃兵器　スーパーキャブ　ＭｋⅢ　雷速２５０ノット　、最大射程１２８００ｍ

・６１ｃｍ主砲位置
艦首側から後部　１番～１１番、１２番～２２番
左舷　２３番、２５番、２７番、２９番、３１番
右舷　２４番、２６番、２８番、３０番、３２番
複数の目標群、または緊急時に対しては９箇所に分散した、統制射撃管制所の指揮官に従い砲撃可能。
ただし各種誘導弾や魚雷は、規格外を超える存在と言われた超兵器に対しては気休め程度にしかならない（飽和攻撃を除く）。

・艦艇搭載装置（補助装置を含む）
・熱光学迷彩装置（目視による索敵を回避）
・新型フィン・スタビライザー（シーステート１５対応・格納式）
・発砲遅延装置
・重力電磁防壁展開システム（設定集①に記載）
・バウスラスター（前中後に搭載、上記に記載）
・ＥＣＭ／ＥＣＣＭ装置
・機雷探知システム
・新型Ｌシステム（発展型ローレライ・システム、またの名を深海のイージス。実用探知範囲２７０海里＝５００ｋｍ）
・各種特殊砲弾（設定集①に記載）
・ダルド・システム　Ｍｏｄ２４
・ＡＭＤＲ―Ｓ／Ｘ（ＳＰＹ―６）　Ｍｏｄ３２（設定集①に記載）
・ＮＡＡＷＳ　Ｍｏｄ３３（タレス対空戦闘システム）
・ＴＡＣＴＩＣＯＳ　Ｍｏｄ２８
・アクティブ・ステルスシステム（設定集①に記載）
・新型給弾装填装置ＭｋＶ　（設定集①に記載）
・慣性無効化装置（設定集①に記載）
・ＳＭＣ（統合戦闘管制指揮所（設定集①に記載）

・マグネティック・デジタル・ビジョン
・モジュール・ウェポンズ・システム
・全方位マルチ・アクティブ・スキャンシステム（Ｌシステムと併用すれば効果大）
・　機雷探知システム
・Ｃ１２―ＩＳＲ次世代指揮通信情報システム
・セレリウム・ワーム・システム
・ＳＳＤＳ　Ｍｋ１８（艦艇防衛システム）
・　ロケットアンカー（ヤマト２１９９参考）
・　新型リニアカタパルト
・　次世代型先進着艦拘束システム（設定集①に記載）

特徴
・兵員・貨物輸送・補給・医療
・　海上移動型前進基地として運用可能。
・海兵隊最大　５００００名＋α乗船可能な居住区（改装後、一部余力がある為）
・民間人　１０万人乗船可能な居住区（海兵隊の増減次第では変わる）
・車両甲板　２５層（７００ｍ×１５０ｍ×１５ｍ）
各一層ごとに、各種戦闘車両を含む３０００両（機甲旅団規模）近い車両と装備、９０日間継戦可能な補給品（武器弾薬と燃料）・工作資材・生活物資・食料・補修部品・武器・弾薬と各艦艇・航空機の補給品ｅｔｃ…を搭載可能。これにより約１２０隻分のワトソン級車両貨物輸送艦とルイス・アンド・クラーク級弾薬貨物補給艦の搭載能力を持ち併せている。
・車両甲板貨物最大積載搭載量割合
海兵教導機動兵団＋α乗船時（予備車両搭載）＋各種補給品・資材・燃料・食料・医薬品等の他＋１個教導軍相当の各種車両・各種火器・装備・弾薬・消耗品を１年分搭載（最大積載時）
・１８０ｔクレーンを各両舷１０基に配備（中央部並び後部側）、給

油移送燃料ホースが左右に6箇所、合計14ヶ所の洋上補給ステーションが設けられている。これにより補給艦艇との作業距離は180Mと延び、安全性は高い。補給品の移送重量も毎時50トンで、荒天下の補給活動や補給作業の短縮がが可能(船体幅が飛行甲板より広い為)。

・燃料タンク20箇所の内16箇所には、それぞれ5．000．000klの艦艇用燃料(合計90000万kl)が搭載されている為、簡易的給油艦としての機能を持つ(タンク事に軽油、A・C重油、ガソリン、航空燃料振り分け可能)。

・Ro—Roハッチは左右に6箇所ずつ配備し第4格納庫と同位置、エレベーターと被らない位置に隣接(装甲板装着済)。

・新型高度機械化武器搬送システム(パレット方式)

・MWR(福利厚生)有り、PX(コンビニ以上スーパー並)、艦内は酒OK。

・逆浸透法淡水化装置を複数装備しており、1日に8万tの清水が精製可能。

・マーシー級病院船(米海軍所属)又は大学病院クラス以上の能力を持ち合わせる。

・搭載機数割合は現時点で45%だが、この他に約45%ほどの空間スペースや天井に予備艦載機や補修部品を吊り下げて保管し搭載されている。

・車両甲板に置かれている舟艇は全て牽引式の台座に置かれており、車両甲板か短艇格納庫へ保管が可能で、必要があればウェザー・デッキかまたは舷側のディテールに設置されているクレーンを使用して、直接海上へ吊り下げるか。あるいはウェル・ドック内に直結設置されている天上クレーン(最大力量85t)を用いればウェル・ドックへ吊り下げも可能である。なお、この天井クレーンは車両を吊り下げする事も可能。

・廃棄物処理装置

1日の処理量最大500トン

・各ウェルドックには、大型艦艇を係船・貨物荷役設備や簡易修繕

ドックの機能を持ち合わせる。

設定集③～八咫烏所属の航空隊・海兵隊・揚陸艇一覧～

戦略海上機動要塞戦艦　八咫烏
船舶識別符号　ＰＳＤＧＯ
隊内符号　オーシャン・フォートレス
八咫烏　所属航空隊
正式名称　第８教導航空軍直轄第４２２独立混成教導航空集団（八咫烏配備部隊）

・編成図

第４０４戦闘航空旅団　各２０機　×１０個編成　計２００機
第４０５戦闘航空旅団　各２０機　×１０個編成　計２００機
第３０８戦闘航空旅団　各１６機　×１０個編成　計１６０機
第２６１戦闘攻撃大隊　各１２機　×　６個編成　計７２機
第４６４戦闘攻撃大隊　各１２機　×　６個編成　計７２機
第５海洋爆撃連隊　２４機　×　１個編成　計２４機
第５６電子戦闘航空隊　各１２機　×　２個編成　計２４機
第１１２対潜哨戒航空隊　各８機　×　２個編成　計１６機
第２無人偵察航空連隊　各１２機　×４個編成　計４８機
第３無人攻撃航空連隊　各１２機　×４個編成　計４８機

第８５空中早期警戒管制機隊　各３機　×４個編成
計１２機
第４０電子偵察航空隊　各６機　×２個編成
計１２機
第７９海上戦闘ヘリコプター大隊　各２０機　×３個編成
計６０機
第４２海上攻撃ヘリコプター大隊　各２０機　×３個編成
計６０機
第４０１海上後方支援輸送飛行隊　各２０機　×４個編成
計８０機
第４０２海上後方支援重輸送飛行隊　各２４機　×４個編成
計９６機
・第４４海兵航空団（４個群１６個飛行隊編成）
第６０５海兵重攻撃ヘリコプター群　２４機×４個編成　計９６機
第９０８海兵航空強襲機動群　３０機×４個編成　計１２０機
第６８４海兵航空兵站輸送群　２０機×３個編成　計６０機
第７０５海兵軽攻撃ヘリコプター群　２０機×３個編成　計６０機
第６８８海兵軽強襲大隊
４０機×１個編成　計４０機
第７０２海兵軽攻撃大隊
４０機×１個編成　計４０機
合計
１６００機（予備機２００機搭載）
搭載機種（機種内容は設定集に記載済み）
Ｓｕ―６０Ω、Ｓｕ―４６ＭＦＮ／Ｇ、ＦＦＲ―４４ＩＢＰＳ

SEA　JAS39G（単座）／JAS39H（複座）
P―1AWACS、Tu―22M5
P―1、EP―1、RQ―4S、MQ―1B、V―120（4発重輸送機）、AR―405（重艦上攻撃機）
MV―88、Mi35・Mk7改、SNF―102D（二重反転版NFH―90）、MH／AH―6Z　MELB
MV―35AEW、D―78H―S／R、D―78H―M／R、Mi―28J―2D

八咫烏航空隊　コールサイン
第404戦闘航空旅団　グリムリーパー
第1戦闘飛行隊　セインツロウ
第2戦闘飛行隊　クラッシャーズ
第3戦闘飛行隊　ブッチャーズ
第4戦闘飛行隊　ピースメーカー
第5戦闘飛行隊　フランケン
第6戦闘飛行隊　オメガ
第7戦闘飛行隊　ドリフターズ
第8戦闘飛行隊　アサシン
第9戦闘飛行隊　セイラー
第10戦闘飛行隊　オッドアイ
第405戦闘航空旅団　ナイト
第11戦闘飛行隊
第12戦闘飛行隊

メア　デビル
第１３戦闘飛行隊
マン　ハリ
第１４戦闘飛行隊
ケーン　ノーバ
第１５戦闘飛行隊
ティ　オー
第１６戦闘飛行隊
ウェン　デッ
第１７戦闘飛行隊
カード　オール
第１８戦闘飛行隊
ド　バト
第１９戦闘飛行隊
ラー　エンペ
第２０戦闘飛行隊
ラー
第３０８戦闘航空旅団
第３１戦闘飛行隊　ヴィンセント（ＳＥＡ　ＪＡＳ３９Ｇ）
第３２戦闘飛行隊　ヴィンデックス（ＳＥＡ　ＪＡＳ３９Ｈ）
第３３戦闘飛行隊　マグニフィセント（ＳＥＡ　ＪＡＳ３９Ｇ）
第３４戦闘飛行隊　ハーキュリーズ（ＳＥＡ　ＪＡＳ３９Ｈ）
第３５戦闘飛行隊　アルビオン（ＳＥＡ　ＪＡＳ３９Ｇ）
第３６戦闘飛行隊　チェイサー（ＳＥＡ　ＪＡＳ３９Ｈ）
第３７戦闘飛行隊　ユニコーン（ＳＥＡ

ＪＡＳ３９Ｇ）
第３８戦闘飛行隊
ＪＡＳ３９Ｈ）
第３９戦闘飛行隊
ＪＡＳ３９Ｇ）
第４０戦闘飛行隊
ＪＡＳ３９Ｈ）
第２６１戦闘攻撃大隊
第１戦闘攻撃隊
バード
第２戦闘攻撃隊
バード
第３戦闘攻撃隊
バード
第４戦闘攻撃隊
ド
第５戦闘攻撃隊
ド
第６戦闘攻撃隊
バード
第４６４戦闘攻撃大隊
第１１戦闘攻撃隊
ダル（ＡＲ―４０５）
第１２戦闘攻撃隊
ル（ＡＲ―４０５）
第１３戦闘攻撃隊
（ＡＲ―４０５）
第１４戦闘攻撃隊
オン（ＡＲ―４０５）
第１５戦闘攻撃隊
カー（ＡＲ―４０５）

ピクシー（ＳＥＡ
ヴェルディ（ＳＥＡ
ヴェネラブル（ＳＥＡ
ブラック
ファイヤー
サンダー
ブルーバー
レッドバー
ホワイト
デュラン
ケストレ
カトラス
スコーピ
ストライ

第１６戦闘攻撃隊　アービ
ター（ＡＲ―４０５）　ボンバーマン
第５海洋爆撃連隊
第５６電子戦闘航空隊
第１電子戦闘飛行隊　シルフィード
第２電子戦闘飛行隊　ガーゴイル
第１１２対潜哨戒航空隊
第１対潜哨戒飛行隊　ポセイドン（Ｐ―１）
第２対潜哨戒飛行隊　アクアス（Ｐ―１）
第２無人偵察航空連隊
第１無人偵察飛行隊　ゴースト
第２無人偵察飛行隊　ファントム
第３無人偵察飛行隊　ハンマーヘッド
第４無人偵察飛行隊　バラクーダ
第３無人攻撃航空連隊
第５無人攻撃飛行隊　キングフィッシャー
第６無人攻撃飛行隊　ソードフィッシュ
第７無人攻撃飛行隊　ファントムレイ
第８無人攻撃飛行隊　センチネル
第８５空中早期警戒管制機隊
第１早期空中警戒管制班　セイレーン
第２早期空中警戒管制班　スカイアイ
第３早期空中警戒管制班　オーロラ
第４早期空中警戒管制班　メドゥーサ
第４０電子偵察航空隊
第１電子偵察飛行隊　オーシャンセントリー
第２電子偵察飛行隊
第７９海上戦闘ヘリコプター大隊　センチネル

第１海上戦闘ヘリコプター隊　三河屋
第２海上戦闘ヘリコプター隊　白河屋
第１海上戦闘ヘリコプター隊　駿河屋
第２海上戦闘ヘリコプター隊　柳河屋
第４２海上攻撃ヘリコプター大隊
第１海上攻撃ヘリコプター隊　越後屋
第２海上攻撃ヘリコプター隊　越前屋
第１海上攻撃ヘリコプター隊　紀州屋
第２海上攻撃ヘリコプター隊　備前屋
第４０１海上後方支援輸送飛行大隊
第１海上後方支援輸送飛行隊　アンティ
第２海上後方支援輸送飛行隊　シャン
ティ
第１海上後方支援輸送飛行隊　クリッ
パー
第２海上後方支援輸送飛行隊　エクステ
リア
第４０２海上後方支援重輸送飛行大隊
第１海上後方支援重輸送飛行隊　カーゴ
マスター
第２海上後方支援重輸送飛行隊　ノー
マッド
第３海上後方支援重輸送飛行隊　ノーバ
ル
第４海上後方支援重輸送飛行隊　サンタ
マリア
第４０４海兵戦闘航空団
第６０５海兵重攻撃ヘリコプター群
第６０５海兵攻撃ヘリコプター第１大隊　ス
ケアクロウ
第６０５海兵攻撃ヘリコプター第２大隊

ヴァイパー　　パ
第６０５海兵攻撃ヘリコプター第３大隊
イオニア　　ア
第６０５海兵攻撃ヘリコプター第４大隊
ルバトロス
第９０８海兵航空強襲機動航空群
第９０８海兵強襲機動飛行第１大隊　　ナイトストーカー
第９０８海兵強襲機動飛行第２大隊　　ダークストーカー
第９０８海兵強襲機動飛行第３大隊　　ブラッドストーカー
第９０８海兵強襲機動飛行第４大隊　　デビルストーカー
第６８４海兵航空兵站輸送群
第６８４海兵航空兵站輸送第１大隊　　アストロ
第６８４海兵航空兵站輸送第２大隊　　スメラギ
第６８４海兵航空兵站輸送第３大隊　　シャングリラ
第７０５海兵軽攻撃ヘリコプター群
第７０５海兵軽攻撃ヘリコプター第１大隊　　ウルフ
第７０５海兵軽攻撃ヘリコプター第２大隊　　ジャガー
第７０５海兵軽攻撃ヘリコプター第３大隊　　ゲーベル
第６８８海兵軽強襲大隊
グレイハウンド（ＭＨ―６Ｚ　ＭＥＬＢ）
第７０２海兵軽攻撃大隊
グレイホーク（ＡＨ―６Ｚ　ＭＥＬＢ）

海兵隊
正式名称　　第４０８海兵教導独立機動混成兵団
総兵員数　３２８００名（第４０４海兵航空団、第７兵站全般支援団を含む）
この部隊の原形は、複数の旅団戦闘団や各種部隊を統廃合と再編成した。海兵遠征師団に近い部隊を編成し、陸戦部隊の教導を受け持つ独立した複合機動部隊である。

所属　教導軍教導艦隊旗艦「八咫烏」配備

・第１集成機械化歩兵旅団（３グループで構成）

・Ａグループ

機械化歩兵６個大隊（各４個中隊＋１個迫撃砲中隊＋１個対戦車中隊）

重迫撃砲連隊（自走式１２０ミリ後装式連装迫撃砲、１０個中隊編成）

・Ｂグループ

水陸両用大隊（３個中隊編成、各中隊定数ＥＦＶ水陸両用戦闘車２６両、合計７８両保有）

・Ｃグループ

空中機動猟兵連隊（３個大隊編成）

・第２戦車旅団（戦車２個連隊主力）

戦車２個連隊（各連隊定数１５０両＝合計３００両）

戦車支援戦闘群（ＢＭＰ―Ｔ１７や機動戦闘車にて５個大隊編成定数１８０両）

車両整備団

・第３野戦砲兵団（砲兵６個大隊＋２個ロケット砲大隊）

・第４野戦防空群（６個中隊）

・第５機械化偵察連隊

・第６野戦工兵団

第６野戦工兵群（戦闘工兵）

第６１野戦工兵群（野戦築城）

第６２野戦工兵群（河川橋梁）

第６３野戦工兵群（重機専門）

第６４野戦工兵群（施設建築）

・第７兵站全般支援団

・第８野戦通信群

・第９戦闘兵站連隊

・独立特殊作戦大隊

・　八咫烏搭載艦艇

・搭載艦艇

スーブル級改揚陸艇　４０隻（搭載量２００ｔ）

大型揚陸艇　ＴＬＣ（ＴＬＣ Ｍｋ４改造型）　Ｍｋ１０　２４隻（搭載量３８０ｔ）

哨戒艇　Ｍｋ６型改　２８隻

ストックホルムＭｋ．２級コルベット（ミサイル艇）８隻

下記に記載されている舟艇は牽引式の台座に置かれており、車両甲板か短艇格納庫へ保管、必要があれば中折れ式ガントリークレーンにて直接海上へ吊り下げるか。あるいはウェル・ドック内設置されている天上クレーン（最大力量２８５ｔ）を用いれば吊り下げも可能である（ヘリコプターや輸送機による輸送も可能）

１１メートルＲＩＢ４０隻

河川哨戒艇　ＲＰＢ型　３２隻

河川制圧艇　ＲＣＢ型　４８隻

河川特殊作戦艇　ＳＯＣ－Ｒ型　５６隻

設定集④～人物※加筆修正有り～

艦息　　八咫烏（人間名　川嶋　正之）

・外見　　雑賀孫市　（戦国無双４）

・容姿　　身長１８７ｃｍ前後と比較的長身で面長な顔立ち。彫りの深い二重まぶたと無精髭を蓄えた顔立ちは何処か日本人離れした印象を受ける。　瞳は黒色（戦闘時には緑色に変わる）。

・愛称「クロウ（鴉）」

・人物もとい艦息

かつて第三次世界大戦の最中に結成した、独立遊撃艦隊所属・第一特殊遊撃戦隊「ケルベロス隊」四番艦艦長を務め。第三次大戦終結後、新たに多国籍民間軍事企業「Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ」（アトラス・オーシャン・セキュリティ・カンパニー）を設立した創設メンバーの１人となる。

兵器評価試験・教導局の教導官と軍事作戦局局長補佐官を兼任し、緊急危機対応機動即応軍所属の前線指揮官というまったく上役の地位にいない一風変わった将校。身長１８５Ｃｍ、外見年齢は３０歳、階級は中将。要塞艦「八咫烏」の艦長を務め。あらゆる関係各所や政財界に強い〝パイプ〟を持つことから、この男を「ブラック・フィクサー」「鋼鉄の大魔神」と言う名で呼び同組織幹部内では、それの名を知らぬ者はいない。

父方の血が濃いためか日本人離れした顔つきで、性根は優しく、細事にこだわらない豪快な人物で、礼節と義理人情を重んじ、情に厚く涙もろく、傭兵としては優しすぎる性格でありながら。世話好きでおおらかでもあり、何かと気軽に部下達と接しては話しかけてくれるし、困った事があれば何かと面倒を見てくれるお人好しな性格である。それでも艦長としての職務にありながら、徹底した実力と現実主義を貫く一方。側近から末端に至るまで兵を把握・指揮し、部下を守るために自らその責務を果たし、社規や国際協定違反の責任を自分に被せるよう指示したりつつ、偶然を装い部下が無事帰還できるよう取り計らったりするなど、厳しさの中にも確かな部下への思いやりを持つため、上官として部下達からは絶対の信頼を集めている。

だが、仕事を邪魔する存在やこちらに喧嘩を売ってきた存在、家族ともいえる乗組員達や仲間を侮辱した者、無抵抗な市民を虐殺し虐げる悪しき者共を、見境なく無償で地獄へ送り出すエキサイティングな男。知る者によると間違えても決して怒らせてはいけない奴・・・。言葉で表すなら「悪逆無道」「悪辣非道」「卑怯未練」「卑劣不正」などと形容すべき凄まじさでしかない。

戦闘では、臨機応変に指揮官として自ら前線に立ち、部下たちに指示を与え、前職の性か操艦技術は卓越しており、艦長としての指揮能力を発揮させるという点においては、艦長や軍司令官にふさわしい手腕を見せ。更に「死人の目（デッドマン・ズ・アイ）」という銃の弾道すら見切る常人離れした動体視力を持ち、艦息特有の身体能力と合わさり素早い動作による正確無比な銃器を使用した遠距離射撃と身の丈ほどもある2本の日本刀をベースにした両刃槍や銃槍をまるで身体の一部が如く振り回すほどの天賦の才ならぬ達人。

欠点は重度ではないが女たらしであり女難の相を持つ、友人たちからは「朝帰りの帝王」と不名誉な名前で呼ばれ。後に並行世界から転移してきた2人を引き取って夫婦となったが・・・今では嫌という程2人から尻を敷かれている恐妻家に早変わりになり、頭が上がらなくなっているという。

後に第四次世界大戦”世界解体戦争”にも参戦し”真の平和”という終戦を導くが、戦争終結直後。ある海域にて乗艦諸共、消息を絶ち。現在に至るも消息不明。

・服装

黒色軍服（ラストエグザイル　シルフィード艦長　参考）

黒色を基調としたロングコートのような羽織姿

冬季時オーバーコート着用

・艦内服装

濃紺作業着＆フローラデジタル迷彩服

コンバットブーツ又は安全靴を使用

・ラフ服装
上　紺色Ｔシャッツ（銘柄　南無阿弥陀）
下　ジャージ又は半ズボン
その他ｅｔｃ……
・声　戦国無双４と同じ
身体能力
・艤装は緊急時、艦娘達と同じように簡易艤装展開、船体収納可能
・特殊能力有り（艦艇修復、治癒能力、物資・弾薬・燃料精製可能、黒王の能力と不死者（自己再生））
・艦内医療設備搭載している為に艦息化した本人は、Ｐ・Ｊ（パラジャンパー）と偵察狙撃兵の能力を持ち合わせている。
・完全治癒再生能力（本人以外全員に効果あり、ただし死人には効果無し）
・資材補給数量（特に弾薬面）は大和型２０隻分、翔鶴型２０隻分、高雄型２０隻分の補給資材が一戦で確実に吹き飛ぶが…上記の能力により１割で収まる。
・粒子状から自在に武器や装具あらゆるものが具現化可能（銃器や刀剣・長物系はり粒子状物質にて秘匿）。
・ドッペルゲンガー　スタイル（ＤＭＣ３より）実体化するもう一人の自分が出て来て相手を攻撃（八咫烏のみ）。
・八咫烏が艦息として転生する直前に、冥府に漂う相手の魂（艦艇・人間）を吸収し八咫烏の体内には数えきれないほどの魂が取り込んでいるためか、余りにも膨大であるために超異常的な身体再生・不死性を持ち、特に不死性に関しては頭や心臓を潰されても死なないほど（ゾンビより恐ろしい）。完全に彼を殺すには、彼の体内にある数十万、数百万ともつかない数の魂を全て殺し、その上で八咫烏本体を潰す必要がある。（上記の補給関連や再生もここから出している）。
緊急艤装
全体的には、ウォースパイトと武蔵改の艤装を組み合わせて、ふた回りほど大型化。左手には飛行甲板をイメージした大型アサルトシールド、右手には大剣と機関銃両用のガンソード（銃剣）、更に大剣から大

槍に可変出来る型を装備、着席時にはシールドがリクライニング代わりになる。服装も黒色を基調としたロングコートのような羽織姿を着用する。なお銃槍や両刃槍だけでも戦闘可能。

銃槍＆盾

モデルはヴァール（戦国無双3）と孫市（戦国無双4）の武器を足して割った物を、さらに追加でグリップ部にあるトリガーを引くと刀剣部分と柄が長くなり大槍に変化する。近接戦闘時スタイルは無双ＯＲＯＣＨＩ２（雑賀孫一＆関羽）を参考にしながら銃先端についた大太刀又は大槍で相手を斬りつけつつ、銃撃による追撃を与える。

銃槍の上部側装着する銃のベースは、ＭＧ１５機関銃。口径は７．９２ミリだが実質は４０ミリ機関砲と同等の性能を持ち。毎分１０５０発、一サドルドラムマガジン、装弾数は１８０発に改造。給弾方法は本体上部にある給弾口に装着して使用する。

シールドは八咫烏飛行甲板をイメージしている為、サイズはライアットシールドを二回りほど大型化し。伊勢型と同じくカタパルトから艦載機を発進させ、更に空母と同じく飛行甲板で離艦着艦が可能である。

・柏葉　凛（かしわば　りん）

川嶋の婚約者で第一夫人。年齢は２６歳。

元は平行世界に存在する”艦娘”と言われた人造兵器「飛鷹」として生きていたが、自分と隼鷹（下記記載）だけが別の並行世界に飛ばされ、さらに一部記憶を喪失で漂流していたところを偶然にも、正之が乗艦していた艦に救出され艦内で治療を受けた。その後意識が戻りやむなく事情を話すと、そのまま翠（隼鷹）とともに正之に身元を引き取られ人としての名前を授かり、正之を惚れてそのまま婚約し夫婦となった。

現在は、夫の正之に尽しつも厳しく八咫烏の艦長補佐官として乗艦しており、翠（隼鷹）の保護者（酒関連）も兼ねている。黒色の髪はそのままだが現在は1本に一括りしたポニーテールの髪型にしている。

艦長補佐の業務が無い場合は、医療グループ所属の衛生兵として応急治療の業務に付く。元は人造兵器なだけに、身体能力や治癒能力が高い。後に第四次世界大戦”世界解体戦争”にも参戦、その後戦争終結直後。ある海域にて夫が乗艦する艦艇諸共、現在に至るも消息不明。後日、自分達の世界へ帰還したと同時に全ての記憶を取り戻す。

・柏葉　翠（かしわば　みどり）

凛の実の妹であり川嶋の婚約者で第二夫人。元の名は「隼鷹」、年齢は２５歳。

上記の人物（飛鷹）と同様に、並行世界に飛ばされ正之に保護された後に婚約。艦長”副”補佐官として八咫烏に乗艦、凛と同様に夫に尽すが・・・正之の財布の中身（金銭）を減らす原因元でもある（主に酒関連）。転移前はピンク色の髪だったが、現在は薄茶色に染め上げ特徴的な髪型は解いている。凛と同じく、元は人造兵器なだけ身体能力や治癒能力が高い。艦長補佐の業務が無い場合は、Ｓ．Ｍ．Ｃ航空管制センター所属の航空管制官として業務に付く。

後に第四次世界大戦”世界解体戦争”にも参戦、その後戦争終結直後。ある海域にて夫が乗艦する艦艇諸共、現在に至るも消息不明。後日、自分達の世界へ帰還したと同時に全ての記憶を取り戻す。

設定集⑤～日本と世界情勢…そして深海棲艦～

１・国家並び世界情勢

この世界は我々と同じ世界だが、一つだけ大きな違いがある。それは何処からともなく深海凄艦が２０１０年に出現し世界は戦争に突入した、その後、艦娘という者たちが現れてから・・・８年という時間が過ぎた物語の世界。パラオ諸島、フィリピン共和国、トラック諸島、硫黄島を日本防衛ラインにして。東南アジア～日本への物流ルートを確保。その代償と引き換えにマリアナ諸島、グアムが深海凄艦に占領され日本本土向け爆撃機、前進拠点になっている。マリアナ諸島から来る爆撃機にたいしては自衛隊から昇格した。国防軍と艦娘が保有している戦闘機で対応しているが…開戦からすでに８年経過した。２０１８年の今日の戦況は、未だにシーソーゲームを繰り返しているが…次第に戦線は時間の問題か、押し切られる寸前状態に陥っている。

日本

あの広島や長崎の原爆投下が無く、１９４５年６月に沖縄が占領された直後。近衛第一師団と海軍陸戦隊による軍事クーデターを敢行、７月中旬には第２次世界大戦が講和による終戦をしてからは…米軍主体の占領復興統治が始まり、現代の日本のように再生して行った。特にソビエト連邦の協定破棄は無かったため…満州を放棄した代わりに樺太、千島列島は終戦後そのまま日本の領土として残り、日本が中華民国へ国連軍として中共建国戦争（１９４６年～１９５２年）に参戦…その後、日本は独立を果たす。そして昭和６４年の昭和天皇崩御に伴い、自衛隊から軍へ無事昇格を果たすが…無知な政治家や極左勢力・反戦団体・反政府過激派組織による。大規模な武装蜂起が起き一時期、日本全土は内戦さながらの市街戦に陥る。分けても９８年の２月に発生した国防陸軍第一師団による軍事クーデター（首都騒乱）が発生しこれを鎮圧、時代はようやく平穏な日々を迎えた…。だが、２０１０年に深海棲艦が出現し現在に至るも、一部の国家は日本へ艦娘を援軍派遣している。

２０１６年に、朝鮮系過激武装集団・中国人工作員による艦

娘拉致事件、５大都市・３空港乱射事件という無差別テロを勃発させる、中華人民共和国並び統一朝鮮とは敵対関係に入る。

米国

１９４５年に太平洋戦争終戦後、日本と日米同盟を締結…そして、深海凄艦出現時にハワイを放棄し住民諸共、核攻撃で証拠隠滅を図ろうしているが…。超兵器による迎撃成功、核兵器使用により世界中から非難を受け、さらに自国防衛に徹している。

狗の国（朝鮮半島統一）→滅亡→統一朝鮮共和国（中華人民共和国朝鮮族自治区）

かつての韓国とは違い朝鮮戦争（１９５０～１９５３）後、日本からの援助により半島を統一後、親日派へなり協力的になる。なお李明博は建国時には大統領にならず米国で余生を過ごし。朝鮮戦争終戦後、反政府勢力は中国へ亡命するが…２０１４年には、金一族首班の亡命者による亡命臨時政府軍と背後に控える中国共産党軍により滅亡する。（脱出しようにも深海棲艦によりことごとく海上で虐殺される）最終的に独立するも中国からは、同盟国としてはなく中華人民共和国の朝鮮族自治区という最底辺の扱いに変わり、情勢はあまり変わりない。中国の片棒を担いで旧朝露国境付近にて小競り合いをしている。後に日本テロ攻撃を実行し、中国共産党と共に日本とは国交断絶、敵対関係にある。

中華民国（現在の台湾と中国東部・南京市、上海市を含む長江南部一帯）

１９４６年から５２年まで中国戦争（中華統一戦争）を経験し、後に独立を果たす。日本からの復興援助などを得て親日派になり。日本からの艦娘技術協力により「戦艦少女」という独自の艦娘を保有する。だが深海凄艦出現時に沿岸部は壊滅したが…現在は、中華人民共和国側の国共休戦協定破棄により第三次国共内戦が勃発する。（深海棲艦との戦争どころではなくなった）

中華人民共和国（中国西部・北部・長江から以北）

今も変わらないバリバリ最強Ｎｏ．１の反日国家で、中華民国と統一戦争を再開し韓国反政府勢力の朝鮮人へ兵器提供を行い、朝鮮半島

制圧し、在日朝鮮・中国工作員、反政府勢力（プロ市民団体）を利用した武力行使した無差別テロを実施し日本とは国交断絶、敵対関係にある（お約束の超漢民族的なタチの悪い共産思想）。さらに６割の海上戦力を消失してしまった変わりにロシア東部ウラジオストク周辺の武力侵攻を画策している。

ＡＳＥＡＮ諸国（ベトナムも含む）

ほぼ親日派、日本に対し絶賛協力している。また一部終戦後、独自に残留した日本兵により、インドネシア・ベトナムの独立運動に多くの日本兵をが生命を落とす。

露助（ロシア）

スターリンは１９４２年の軍事クーデターにより死去したが、日ソ中立条約が破棄されることが無いまま樺太・北方領土を占領されること無く。友好国としていた。だが深海凄艦出現により国土防衛に徹するが…２０１３年から勃発した。ウクライナ内戦（クリミア独立戦争）により欧州連合との足並みが揃うわけがなく。さらに領土拡大を狙う中国や統一朝鮮と小競り合いを起こしている。

中東

スエズ運河が何者かの攻撃により　消滅。現在、スエズ海峡として名称名前が変わっている。何故か、中東の軍隊とテロリストと一緒に深海凄艦相手にして頑張っている。

パナマ

スエズ運河と同じ運命をたどるが……周辺一帯の国家は、消滅したのと等しい。

マーシャル諸島

マーシャル諸島の住人は深海棲艦の攻撃前に無事米国に脱出し、入れ替わりに艦娘達が前哨基地として運用していたが…後に深海棲艦の猛攻により陥落した。

ニュージーランド並び太平洋諸島一帯

真っ先に深海凄艦に占領され住民の大半は抵抗し死滅。チューク諸島は生き残りがおり現在、派遣軍を展開しその諸島を最重要拠点として防備を固めるが…。戦力低下に伴う防衛継続か、戦線縮小に狭ま

れる。

オーストラリア・ニューギニア島南部

とある巨大兵器の援護を受け深海棲艦と共に占領。以後、豪州は前線基地と兵站基地を兼ねた不沈要塞として君臨し。ティモール海、アラフラ海を挟んで人類軍（艦娘側）と対峙しながら。東南アジア諸国、ビスマーク諸島（ラバウル基地）への散発的な空襲と威力偵察、さらに深海棲艦型潜水艦による。インド洋・南シナ海・フィリピン海方面の通商破壊活動により日本への補給輸送路遮断を継続中。

欧州連合（イギリス、北欧、東欧含む）

現在、英仏海峡（ドーバー海峡含む）、ノルウェー海、アイルランド、アイスランドを防衛ラインとして連日、深海棲艦と一進一退の攻防戦を繰り返している。さらに地中海や黒海への侵攻を防ぐため西側にあるジブラルタル海峡と南東部にあるアデン湾並びソコトラ島の防衛が急務になっているが…未だ欧州とロシアの代理戦争という。ウクライナ内戦（クリミア半島独立戦争）の停戦目処が立たない状態であり、ロシア軍とロシア軍所属の艦娘支援を受け入れられない状態だった（国家間の思惑次第では、艦娘又は戦艦少女同士の殺し合いは確実）。

2．深海棲艦一覧表

世界各国または日本国防海軍の戦闘・目視にて確認済み。または識別不明な未確認の深海棲艦詳細内容一式を記載。この他にも未確認タイプがある模様、情報入手次第。順次改正していく予定。

深海凄艦	艦型
駆逐艦	イ級後期
駆逐艦	ロ級
駆逐艦	ハ級
駆逐艦	C級
駆逐艦	二級
シムス級	
グリーブス級	
フレッ	

チャー級
軽巡　ホ級　アトラ
ンタ級
軽巡　へ級　アレ
スーザ級
軽巡　ト級
パース級
軽巡　ツ級　リアン
ダー級
雷巡　チ級
超球磨型
重巡　リ級
改ウィチタ級
重巡　ネ級
ボルティモア級
戦艦　ル級　改アイオ
ワ級
戦艦　ル級　FS・改FS
改加賀型戦艦
戦艦　タ級
改ライオン級戦艦
戦艦　タ級　FS・改FS
改インコンパラブル級
戦艦　レ級　改
関ヶ原級
戦艦　レ級　FS・改FS
改ヴァジュラ級双胴航空巡洋戦艦
軽空　ヌ級　改イ
ンディペンデンス級
軽空　ヌ級　FS・改FS
改コロッサス級

正空　ヲ級
改アーク・ロイヤル級
正空　ヲ級　FS・改FS　改エセック
ス級（1945型）
潜水艦　カ級
ガトー級
潜水艦　ヨ級
バラオ級
潜水艦　ソ級
テンチ級
鬼・姫級
駆逐凄鬼　アレン・M・サム
ナー級
駆逐凄姫
ギアリング級
駆逐水鬼　改
改ゲイボルグ級
駆逐古鬼　改
ウェポン級
駆逐古姫　改
デアリング級
軽巡凄鬼　ブ
ルックリン級
軽巡凄姫　グ
リーブランド級
重巡凄姫
オレゴン級
重巡夏姫
デモイン級
防空凄姫
超ウースター級

潜水凄鬼
セルルフィシュ級
潜水凄姫
改スルクフ級
水母凄姫
改日進級
水母水姫
超コマンダンテ・テスタ級
空母凄鬼（夏鬼）
ンデロガ級（１９５０年型）
空母凄姫　（夏姫）
ウェー級（１９７０年型）
空母水鬼
超フォレスタル級（１９７０年型）
空母戦姫
超キティーホーク級
戦艦凄鬼
改１３号型戦艦
戦艦凄姫（夏姫）
ト・アンドリュー級（戦艦Ｎ３級）
戦艦水鬼
フロリダ級戦艦（浮沈戦艦紀伊）
戦艦戦姫
Ｈ４４級戦艦
戦艦仏棲姫
ネブラスカ級
装甲空母凄鬼
ジブラルタル級
装甲空母凄姫
ンプラカンプル級
装甲空母水鬼

超タイコ
超ミッド

改セン

超
超イ
超

オーディシャス級
深海海月姫
超グレイバック級
深海双子棲姫
エクスプローラー級
潜水新棲姫
超アンフィオン級

超

プロローグ
古き世界への別れと新しき世界への旅立ち

ここに、ある通信傍受を専門する部隊が。それを記録して書き留めていた。1枚の報告書の日付は開戦直前のもので、内容にはこう書かれていた。
〝この世界のすべてが、我々の前に武力をもって立ち塞がろうとする者が存在する者あらば、これを排撃し撃滅する〟
ただその一文だけが、報告書に書かれていただけだった。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

もし、とある我々が住むこの世界の狭間に、もう一つの世界・・・・・すなわち〃並行世界〃という世界が存在し、その世界に住む人間が同じであるにも関わらず。その世界の歴史が我々のいた世界の歴史とは全く異なっているの事実なのだろうか?

ある1つの世界では、世界を裏から操る秘密組織。通称「灰色の国家」によって発生した・・・。第三次世界大戦（2000〜2014）通称〃非核大戦〃は、「灰色の国家」とその命に従う国家群が共通する目的は、1つ。

自分達の住む世界、並行世界への侵攻という世界征服を目論んでいたのは明らかであり、密かにこの世界に集められた並行世界の出身者達で構成した独自の組織。通称〃第零遊撃部隊〃という組織が彼らと敵対する組織の前に立ち塞がり、この世界の思惑に抗う意志と抵抗をみせた。

そして、14年の長きに渡った〃非核大戦〃は、「灰色の国家」

と平行世界への侵攻を目論んだ灰色の国家が、建造した全ての超兵器を「第零遊撃部隊」という第三の軍事勢力によって撃沈された事…そして、第零遊撃部隊が保有する最強の切り札、第一特殊遊撃戦隊「ケルベロス隊」は最後の拠点がある北極海へ部隊を派遣し、「灰色の国家」が保有する最後の超兵器を〝撃沈〟という形でようやく世界が望んだ終戦に見えたが・・・元の世界へ帰還する願いが叶わなかった。

その世界に残留しその翌年、２０１５年には新たに設立された世界連邦の主導の元、功労者でもある独立遊撃艦隊は解散し…その後、行くあてのない者たちを集めて新たに企業を設立した。

その名も・・・（※1）多国籍複合軍事企業～Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ～（アトラス・オーシャン・セキュリティ・カンパニー）

この組織は、〝非核大戦〟半ば頃から密かに設立し、艦隊が解散した直後、正式に結成された。多国籍複合軍事企業で、独自に海運業・造船業・物流・重工業そして、直接的な戦闘のみならず、自社が持つ軍事兵器の整備・開発や兵站・物資調達、軍事顧問、戦闘訓練など、軍事・兵站業務に関わる様々なＰＭＣ業務などを受け持つ複合企業として設立した企業だ。

企業を立ち上げたのは、元の世界に帰れなかったものたちへの受け皿として、自分達もまたこの世界の片隅に生きていくことを改めて決意した意志の現れだった・・・・・。

かの組織は欧州（オランダ）に本拠地を設立し、北米や南米、中近東、アフリカ、北欧、東欧、極東にとあらゆる方面に支部や事務所を持つ、社員・幹部は共にその前身部隊からの出身で構成しており。企業設立後に新規参入した者達も多数在籍しているが、規模・兵力・資金・練度・技術あらゆる面では、世界各国の正規軍や企業を遥かに上回っており、そのためか各国各地に展開している正規軍や同盟の名目で展開していた部隊や企業は、軒並みにこの「Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ」と契約し、全世界の軍事・ＰＭＣ関連と海運・物流の約７５％を担うようになってきた。

特に米国は、先の大戦の影響により軍備再編・縮小という名目で、日

本へ〃同盟継続という在日米軍の撤収〃を提唱し。在日米軍に代わりに彼ら「A・O・C・S」が、その日本防衛を引き継ぐ形で日本政府と安全保障・軍事契約を締結し、「日本国防軍」と共同で、北アジア連合（中国・統一朝鮮）の抑止力と日本の防衛についていた。

その戦争が終わり組織を立ち上げては、それから数年の月日が流れていった…だが、そこですべての戦争が無くなる訳がなかった。残留した第零遊撃部隊の将兵達は、近いうちにまた大規模な戦争が起きるだろうと…。

ある海域の一つ、突如インド洋の南に位置し出現した。スヴァルト・アール・ヴァヘイムル諸島（※2）は「A・O・S・C」直系組織、兵装試験・技術教導局、通称〃教導軍〃戦力をここに配属しそこから全世界へと教導軍を派遣し、新たな人材の育成を行っていた。

元々この諸島は、複数のフィヨルドと浸食海岸、標高４０００ｍ級の山々がそびえ立つ天然の要害を大小１２の島で構成されていた諸島だが、敢えてその地形を生かして洞窟や崖をくり抜き、更に地下基地を建築し複数の飛行場と港湾施設を洞窟内や地下に設けている為に、スパイ衛星からの偵察では判別のしようがなかった。

さらにここでは、技術開発研究局が開発した兵器を試験運用出来る最適な場所で、この〃教導軍〃に所属する超巨大な艦艇を隠し通すのにも好都合だった。その艦名は・・・天界へ導く三本脚の鴉（からす）「八咫烏（やたがらす）」という。

だがそれ以前に問題もあった。現在は「A・O・S・C」がその諸島全域の領有権を獲得しているが、海底には無尽蔵の海底資源が発見されていた為に世界各国が手のひらを返して、この諸島に目を付けては互いに領有権を主張しあっていた（南朝鮮と同じく手口）。

そして２０２２年、世界の意図的なのか？偶発的衝突なのか、正規軍クラスの装備をした武装集団がA・O・S・C中近東支部へ襲撃。その一件を発端に、世界各国は一巨大私設複合軍事企業〃

A．O．S．C〃を相手に、第四次世界大戦。後の”世界解体戦争”とも言うべき戦争を始めたのであった。

その〝戦争〟が開戦してから3年。世界各国はまるで当然の如くA．O．S．C抹殺を実効する為に各地の支部や基地攻撃を実施。A．O．S．C達は世界連合軍に相手に世界各地で応戦していった。

世界各国がなぜテロリスト紛いに扮して〝A．O．S．C〃という企業を滅ぼしたい理由は、二つだけある。それは今大戦を含む、二度に渡る世界戦争と超兵器の関与…そして、あらゆる国家の裏側と〝ある組織〟を知り尽くしてしまった為と、先の戦争で滅んだ筈の組織「灰色の国家達」の敗残兵がこの戦争の裏で関わっていたのは事実なのは間違いなかった。

もともと「灰色の国家達」という組織の前身は、かつて第二次大戦中の米・英・露と日・独・伊という古き国家思想を持つ敗残兵達が樹立した組織で、その裏側では超兵器による平行世界への武力侵攻と自分達を滅ぼした…第零遊撃部隊への報復を待ち望みながら。世界各国の裏側で再度、超兵器を建造し。新たに4隻の究極超兵器をグリーンランドの機密施設で建造、報復の機会を伺っていた。

その艦名は…。超巨大戦艦「リヴァイアサンⅡ」、超巨大戦艦「ヴォルケンクラッツァー・ツヴァイ」、超巨大戦艦「ルフトシュピーゲルング・ツヴァイ」、超巨大戦艦「グロース・シュタット・ツヴァイ」。

八咫烏は幾度となく「灰色の国家達」の信奉者達と交戦を繰り返していき。敵味方の命をこの世界で散らせて、彼らはこの仕組まれた無意味な戦争で命を散らして行くなら…ふたたび現れる。「4隻の究極超兵器を撃沈する！」という強い意志を持って「海龍Ⅱ」、「摩天楼Ⅱ」、「蜃気楼Ⅱ」、「大都市Ⅱ」の4隻を、グリーンランド島近海にて全て撃沈し。そして2度と、超兵器の建造が出来ないようグリーンランド島の機密建造施設を一切合切、跡形もないよう原型咎めることなく破壊した。

だが度重なる連戦による損害により一度、補給修繕の為。基地へ撤

収を図ろうとしたが、A・O・S・C本社情報局が〝ある艦艇〟が北極海近海の島で再建造されているという機密情報を入手し道中、補給艦や工作艦などと合流しノルウェー北部にあるスヴァールバル諸島にて最後の補給と急場凌ぎな修繕を終え、八咫烏は補給修繕に来てくれた艦隊と別れ。一路、艦をバレンツ海を経由して東進させた。

目的海域は・・・北極海。

鋼鉄世界　AD2025・12・31　　ロシア連邦ノヴォシビルスク諸島北西部海域

先のと合わせても二度に渡る。世界大戦や国家解体戦争とも言えるこの第四次世界大戦は、最後の敗残兵と言われている「灰色の国家達」主導の極秘建造計画艦、究極超兵器『超ヴォルケンクラッツァー・ツヴァイ』を撃沈する事により、この戦争を終戦に傾いていくことをただ待つことしか出来なかった。

まるで、この世界における全ての　役目を果たすように…と。だが…まだその奥には超兵器ノイズが、その方向に向けて異常反応を起こしていたのは確かだ。だが、その方向を差し続けている場所は、流氷群が漂う北極海で罠の可能性もあったが。だがあえて、その目標に向け誘われていくように戦闘態勢を維持したまま。その海域へ針路を向けるため舵を取った。

流氷群の中を航行して。少なくとも、4時間の時間が過ぎていった。そして予想どうり。そのでかい氷山の周辺には多数の敵艦隊が残存しており、八咫烏はすぐさま戦闘を開始した。

『艦長、反応からして確実に近づきつつありますが、奴がいません』

「おそらくまさかと言っていいが、あの氷山の中に隠れてるかもしれない。仕方ない、砲術長！試しに主砲をあの氷山に何発か撃ち込んでみてくれ、副砲群や各兵装は周辺海域に展開する敵艦艇に向けて攻撃を開始してくれ！」

「了解です」
（おそらくやつはあの中にいる。そこまでして世界は俺達をこの世界から抹殺したかった…。だが、座して殺される理由にもいかないよ！今度こそやつを倒してやる。）
『艦長！　正面の氷山の中に電磁場及び重力場反応があります・・・それから、あの中から超兵器ノイズの反応があります！』
　副長が示す先には、馬鹿でかい氷山があったにもかかわらず。超兵器特有のノイズが発生し続けていたのだ！そこで川嶋は、砲術長に向けてこう命令した始めた。
「やはりか、良し全主砲！直ちにあの氷山に向けて砲撃を開始せよ！」
『了解しました、では早速撃ち壊しにか…』
　副長は次の命令を発する前になって、思いもしない情報が迷い込んできた。
「艦長、大変です!?超兵器の始動確認、来ます」
「…あら、きちゃいましたか？艦長、殺りますか？』
　副長は少しばかり、顔をにやけながら艦長に指示を仰いだ。
「そうだな、では戦るか、さあ～皆～準備しろ、奴を確実にこの海の底に沈めるぞ！そして、必ず元の世界へ帰ろう！」
「おー、殺りますぜ艦長」「各種兵装、準備良しいつでもどうぞ」
「俺達を元の世界へ帰さなかった２５年分の怨み！　思いしれ！」
　自分達の目の前に堂々とする。究極超兵器こと〝超ヴォルケンクラッツアー・ツヴァイ〟を沈めれば、この戦争が終わり。本当の意味で元の世界へ帰れると信じきっていた。戦闘が長引くにつれて、究極超兵器の戦闘が終盤に差し掛かるころこちらに無線通信が入ってきた。よりにもよって、目の前で相手している艦の艦長からだった。
「貴官さえ…あの部隊さえいなければ！　我々はこの世界を全てを真の平和的に統治できたのに、何故貴様は我々の邪魔する。」
「それはこっちの台詞だ、なぜ貴様はこの世界に飽きたらず。２度の復活を果たしたにも関わらず。我々の世界へと侵攻し、その世界を統治する意味があるのか？ただ敢えて言うならば、貴様ら世界連邦が目論んでいた野望は！ただの平和的の統治ではなく偽りの平和であり、

恐怖と暴力の統治では無いのか？」
「今までの戦争で多くの兵が、多くの艦が沈んでいっただがせめて貴様はこの世界から…生かして帰すわけにはいかない、この世界の暗く深い海の底で沈んでもらおう。」
「面白いオレ達か貴官のどちらが生き残るかこの一戦で決めようかじゃねーか、だがここで沈むのは俺たちでは無く、貴様よ！」
「その潔さ見事。ならば全力を持って我が艦こそ、真の究極超兵器だと思い知らせるまでだ。　全力を持って貴艦、八咫烏を沈めさせて頂く！」
　敵艦との通信が終わり。艦長は副長に顔を向けて、こう話していた。
「副長、このまま航海の指揮を頼む。俺は、主砲射撃管制所に行ってくるよ。向こうがその気なら、正々堂々と受けて立つまでよ。」
『了解です…が、それが艦長。ヤバいことに…応急修理していた主砲の部分が一部限界を迎えたようです。砲術長の話ではあと、1回が限度かと…』
　副長からの報告に耳を傾けていたが。艦長は一度、深呼吸をすると・・・。
「そろそろ限界だったか、分かった。ここいらで腹をくくるか一世一代、玉砕覚悟の勝負に出るぞ。」
　艦長が主砲射撃管制所に着く頃には、敵〝超ヴォルケンクラッツアー・ツヴァイ〟が装備する最凶兵器「量子波動砲」を撃つ状態に差し掛かっていた。艦長は敵艦に向けて最後の〝６１ｃｍ砲〟を撃ち放つために射撃準備をしていた。だがそこへ二人の女性将校が来ていたことに気がつきくと。不自然なことに、先程までの戦闘騒音の騒音が響いてこくなりあたりは静寂になった。そこへ八咫烏艦長〝川嶋正之〟と婚約した二人の奥方、黒髪の女性〝凛〟と薄茶色の髪色の女性〝翠〟に向けて、謝罪するように話し始めた。
「凛（飛鷹）、それに　翠（隼鷹）。　俺たちの戦争に巻き込んでしまってゴメンな。せっかく　人としてまっとうな人生を歩んでいけたのにさ。本当に申し訳ないよ」

この言葉の後、黒髪の女性凛は・・・。
「正之。私と翠はあの時あなたたちに救われてから、人間として今まで十分に生きてきたから。何も心配ないよ、それに貴方がこの世界いなくなったら私たちはこの世に生きる意味はもうないもの」
そして、翠も同じように話し始めた。
「そうだよ正之。あたしだってアンタがこの世にいなきゃ全然、楽しくないもの」
「・・・すまんな」

艦長は使用する弾薬や主砲射撃装置の確認を行い、射撃装置に設置されている照準鏡を覗くと。敵は船体ごと量子波動砲をはこちらに向けて、すでに発射体制が間近に迫っていた。そして、独り言かのようにこう呟き始めた。
「量子波動砲の砲身が確認できるな・・・。一発必中ならぬ　全弾必中か。それじゃ、殺るか。ここで決着をつけるためにもね」
そして艦長は、主砲射撃装置のグリップにある引き金に指を当て。目標に照準を合わせてからひと呼吸を置き・・・その世界の物語に決着を着ける為に、引き金を引いた。
「一射一殺・・・・。っ撃ェェェェ！」
八咫烏から放たれた。５発の主砲弾のうちの１発が、量子波動砲の砲身に命中し究極超兵器「超ヴォルケンクラッツアー・ツヴァイ」は大爆発を起こし、瞬く間に海底へと沈んでいきはじめた。そして奴が最後にこの〝とんでもない〟言葉を残していった。
「今ここで沈めても、また必ず我々の様な奴が必ずいる、そして必ず甦らせてくれるだろう。せいぜい足掻くがいいさ」
「おい！それはどういうコトだ！答えろ！」
「それを教えては楽しみがないだろう・・・。フハハハハハハ・・・・」

この一言を最後に通信が途切れ、〝超ヴォルケンクラッツアー・ツヴァイ〟は大爆発とともに海底へと沈んでいった。そして２０２６年という新しい新年を迎えるのと同時に、ようやく第４次世界大戦〟

国家解体戦争〃の終結を迎えた。

八咫烏の手で、この世界に再度出現した。５隻の究極超兵器〃海龍・摩天楼Ⅱ・蜃気楼Ⅱ・大都市Ⅱ・超摩天楼Ⅱ〃はそれぞれ全艦撃沈し、その全てが水面の底へと消えていった。八咫烏はすぐさまその海域を離れ自分達の基地があるインド洋に向けて、南太西洋を単艦にて航行中、突如として八咫烏は消息を絶ってしまった。

その翌年、1月1日をもって全ての国家は「〃Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ〃と終戦和平交渉を行う準備を実している」と、全世界に公式発表した。そしてその終戦和平協定後、すべての国家は新たに設立した〃世界連邦〃という組織に加盟する条件を下に、ようやく第４次世界大戦はおわりをみせた。

ただ・・・八咫烏の消息不明に関しては、〃Ａ．Ｏ．Ｓ．Ｃ〃側はこの非常事態に考慮して、表向きの公表内容は次のとおりだった。

「八咫烏艦長以下乗組員達は、世界規模の過激派武装集団を相手にし、北極海にて戦死を遂げた…」

という虚実の発表を行うことにし、事実を知るものたちからの報告によれば・・・。

「いきなり蒼白い光の壁が出現して八咫烏はそれに吸い込まれていった・・・。」

これはＡ．Ｏ．Ｓ．Ｃ所属の第一教導艦隊第一空母機動戦闘群が、八咫烏護衛を兼ねて大西洋を航行中。南回帰線に差し掛かっていた同時に、その様子を護衛艦艇の乗組員が目撃し。それを撮影した映像と一緒に、そのまま軍上層部へ報告書を提出していた。だが、この真実を公表するのは帰って危険性が及ぶのは明らかだった。闇に葬られるか金庫に保管されるのは確かだった。

だ、一つだけ言えることはあった。

彼らがこの世界に生きてはその世界の物語りは終わり…この世界における持ち過ぎた　力を携えて。違う世界への旅立っていった。

だが・・・その世界において極めて危険な驚異（八咫烏）は、その新しい世界

においておける。救いの導き手になるのか?それとも破滅の導き手にとなるのかは、まだ・・・誰も知らない。

第1章　その世界に降臨した異形の鴉

第1話

艦長以下乗組員は全員。眩い閃光と共に、あの蒼白い光の壁を目撃してから全員が一斉に気を失ってしまった。そして、艦そのものが蒼白い光の壁を突破した後に、目を覚ますところから始まる……。

×月×日　???上　????

「…長、…艦…。艦長！」

「……。……ここは…俺は、一体？」ギシッ

八咫烏は、副長の声がする方へと体の向きを変えたが…肝心の副長の姿はどこにも居なかった。そして、自分たちの護衛に同行してくれていた。艦艇の姿は全て消失していた。ふと不思議な事に頭の中であの時…『超摩天楼Ⅱ』艦長が死にぎわの際に漏らしていた言葉に、疑問を思っていた。

（しかし・・・。奴らの最後に言った言葉が気になるな。）

そしてどこからか…副長の声が聞こえてきたのだ。

「艦長、申し訳ないですけど。こっちに顔向いてもらえませんか。」

「え？　もう向いているけど。」

副長が指定してきた方向に、顔を向けるとそこには何も無かった。だが、不自然なほどに何故かどこからか、視線がチクチク感じていた、すぐ近くに何かいるということに。

『分かりました。それじゃあみんな一斉に声を出そう、いいかな～』

「「いいとも～!!」」

「・・・・えっ!?」

その副長たち乗組員の姿を見て、八咫烏は両手を広げては。この世とは思えない顔つきはまるで「ムンクの叫び」が如く、大声で叫んだ。

「・・・・・なんじゃこりゃー!!?」ヒェー

乗組員全員のあられもなく見る　面影がない姿に変わってしまっ

ていると言うことにおどろいたが、八咫烏（川嶋）は、それを見た時点で無理も無かった。どうやら副長達から事情を聞いたところによると。八咫烏こと川嶋は艦息となり、副長らみんな身長５０～６０ｃｍ位の大福顔の妖精になっていたが、それに驚いていた矢先。突如、ＧＰＳや通信衛星、電子機器の警報が一斉に鳴り響き、まるでたたき起こされたかのように全員が一斉に驚き。その警報をすぐさま理解した艦長（八咫烏）は、彼らに一度。意識が回復したものたちから、急ぎ艦内状況の把握と関係各所の連絡を急がせていた。

「・・・・各部署、状況を報告せよ！」

回りは艦内状況の把握と関係各所の連絡を急がせている最中。彼は艦長席に戻ってはその席に座り、先ほどのことを思い出していた。

（確か俺は、あの時…。いきなり俺たちの目の前に蒼白い光の壁が開いて、何かの拍子で気を失ったんだっけか…。）

そう内心思っていた矢先。状況確認が取れた部署から、連絡が入ってきた。

「こちらＳＭＣ（※用語①）。ＧＰＳ・通信衛星、共に異常なし！」

「機関制御室。電子機器に一部異常あり！」

「統合通信管制室、護衛艦艇全艦と連絡途絶。ならび本社総司令部、基地司令部と連絡取れず」

「こちらＳＣＣ（シップ・コントロール・センター）艦内各所全て、異常なし！」

矢次早に流れてくる情報を艦長や副長ら幹部の面々は、的確にこの問題に処理していくと・・・意外にも早く現時点における。今現在の状況が把握できた。

「・・各部署の情報をまとめると、ざっとこんな感じかな？　まぁ・・・みんなの姿には驚くが、そればかりは仕方ないか。『八咫烏』全乗組員全員の安否は確認済み。ＧＰＳや通信衛星は使用可能。確実に起きていることが、本社総司令部並び基地司令部、そして護衛に同行してもらっていた空母戦闘群とも連絡途絶・・・か、それと副長。皆起きて気が付いたらそんな姿になっていました。というのか？」

「はい艦長、その通りです。いやぁ～自分も起きたらびっくりしましたよ。まさかこんな姿になっちゃうんですからね。それも妖精とや

らにですよ！いやはや、恐ろしいものですな」
　そう言って副長は苦笑いし。八咫烏は艦長席から席を外し、航海艦橋（第1艦橋）左舷側ウィングに通じるドアに向けて男は歩きだし。そこからから外に出て、瞬時に男は周りを見渡してみた・・・。が、どう見回しても…前部艦橋側から艦首までに１１基の６１ｃｍ砲が縦や艦橋周辺に一列して並ぶように鎮座しており。その周辺を速射砲や各種機関砲。果ては、事あるごとに副砲替わりに使用していた超電磁砲も見受けられるし。更に甲板には無数のＶＬＳが設置していてるから、間違い無く自分が艦長（八咫烏）を務めていた艦に間違いは無かった。
「艦長、これからどうしますか？」
　副長からの質問に、八咫烏は両腕を組んで考え事をしていた。
「そうだなぁ。本社や基地にも連絡が取れずじまいだし。どっかの国に身を寄せるにもいかないし・・・。　とりあえず副長、今の現在地と。艦の兵装・艦載機等の稼働状況を確認してもらえるか？　」
　その質問に副長は、おそらく各部署からの伝令兵だろうと思う若い兵士たち（大福顔だから分からん）が持ち込んだ報告書を受け取り。手元に取ってはそれを読み上げていた。
「それについては。先程、航海科が位置測位の確認を終えております。まず現在地関しては・・・同じ南回帰線上ですが、驚かないでくださいよ？なんといきなり大西洋上から。ここ南太平洋イースター島北西約６００ｋｍの位置に飛ばされております！　だからＧＰＳや通信衛星には、〝送受信エラー〟という異常反応が表示されていたんでしょうな」
　副長は、いま手元に持っている報告書を続けざまに読み上げていた。
「砲術長・砲雷長・水雷長の三名からの報告によると全兵装使用可能という報告が上がっており。また、第８教導航空軍司令官と海兵教導旅団長からも同様の報告が入っております。さらに本艦に搭載されている各種艦載艇もすべて、異常は見受けられず。使用には問題有りません」
「わかった。ご苦労様」

副長からの報告が終わり。それぞれが持ち場に戻ろうとすると、副長は何か言い忘れたかのように艦長のところまで戻って行き。話忘れたことを付け加えでこう話した。

「そう言えば艦長。アレどういたします？　確か今、艦内のコンテナや倉庫に分散して保管している。　例のヤツ」

「やっべぇ、そうだった。　アレの存在すっかり忘れていたわ」

副長が言うアレとは、言葉通り枢軸国や連合国から戦争賠償金として、米ドルや日本円等の資金、金塊、貴金属、宝飾品等と、八咫烏艦内の倉庫などに保管していた。

さらにA・O・S・Cは、元の世界における前大戦と今大戦のドサクサに紛れて、全社員や乗組員に対する戦争終戦後の終生退職金とでっち上げ。敵対関係にあった「灰色の国家達」が世界各地に隠していてあったと言われていた。金塊や宝石類の大半を差し押さえと言う・・・掻っ攫いをしていたことになる（当然、恨まれても文句は言えない）。

この話を聞いて更になって思えば、別世界とは言えど。もしそれらを市場へ放出れば時価でも数千兆ドル以上の高額にはなると言われた。だがもし、そんなものが経済市場へ流出すれば、経済関係は簡単に崩落してしまう。

たとえ放出しなくても、それが存在するとわかれば、それらの価値が一気に大暴落すると国際経済が大混乱するのは間違いなかった。

これらの内訳だけでも、艦内車両甲板の一角にあるコンテナや空き倉庫にはまだ。二万七五〇〇トンの金塊に、ダイヤモンドだけで四二〇〇キロ、その他の宝飾品だけでも実に七八四〇キロ、銀やプラチナは軽く見てもそれぞれ三万五〇〇〇トンはある。

しかもダイヤモンドやその他の宝飾品のすべてが、工業用ではなく第1級の宝飾品につかわれる代物ばかりで。さらに　彼（八咫烏）自身が持つ弾薬・燃料・軍需資材を無限に生成してしまう特殊な能力。当然これでは兵站という概念が、根底から否、この世から崩れさるという非現実的な現象に直面して、多くの軍関係者が狂喜乱舞するのは間違いない。

ただ一言で言えば、〝この世界で最も裕福な傭兵軍団で、間違っても敵にしてはいけない軍団〟なのは、間違いない。
八咫烏は艦長席に座ったまま。これから先のことを思い、少しばかり思案に老けていった・・・が、その時。誰かが左側からに自分に抱きついてきたのだった、そして顔を左側に向けるとそこには洋上デジタル迷彩服（※用語②）着用し左腕に医療グループ所属〝衛生兵〟の証明である。赤十字のワッペンを付け、襟の両側に中佐の階級章をつけた八咫烏こと〝川嶋正之〟と婚約した一人。　凛（飛鷹）が何故か、彼のそばにいたのだった。
だが、なぜか少し暗い顔をしていたのだった。仕方なく八咫烏は、少し話を聞いてみることにした。
「どうした凛？オレなんかまずいことをしたのか・・・」
だが彼女は、首を横に振ってそれを否定したのだ。だけど、今度は彼女の口から色々と話し始めた。
「正之（八咫烏）・・・私、最初に貴方にあった時。　私（飛鷹）と　翠（隼鷹）、前の記憶を覚えていないって言ったの覚えてる？」
「あぁ・・・覚えているよ」
実はこの女性二人。　凛（飛鷹）と　翠（隼鷹）（※人物③）は、元の世界の記憶を喪失したまま。正之（八咫烏）（※人物④）のいる世界に飛ばされた別世界の人だった。だが　凛（飛鷹）の言葉に、少し疑問を抱いた。この後口にする言葉で、結果がどうであれ。それを今の状況を覆せるものではないと彼はそう認識して、こう問い始めた。
「何があった。教えてもらえるかな？」
「私・・・。　私と翠、すべて思い出したのよ」
彼は彼女の一言「思い出した」という言葉に、もしやと思い。聞き返してみきた。
「思い出した・・・ということは、まさか凛！記憶が全部。戻ったのか！」
そう言って彼女は。それに答えるかのように首を縦に振っては、短い言葉を発した。
「・・・うん」

彼こと八咫烏はそれを瞬時に理解し。その言葉を聞いては彼女に向けて、こんな質問をしてみた。
「凛・・一つだけ、聞いてみたいことがあるんだ。一体この世界は・・・どこなんだ！　教えてくれないか？」
八咫烏の言葉に、副長以下幹部たち全員がこのやりとりを耳にしていた。
そして彼女こと凛(飛鷹)の口から、この世界がどういうところなのかと言う事を。そして、いきなりトンデモない戦争に巻き込まれていることを瞬時に理解した。
「この世界は・・・。　この世のどこかで亡くなった魂と共に具現化した怨霊深海凄艦と、人類を守るために大戦中の艦から実体化し人の姿を持つ兵器艦娘です。今もこの世界のどこかで、艦娘と深海凄艦との戦闘が続いています。　そして私(飛鷹・隼鷹)達の夫であり貴方たちの艦長は、八咫烏(川嶋正之)という艦息になってしまったのです！」
この凛こと飛鷹と言う女性から話を聞いた全員は、硬直し。そしてこう思った。
我々はまた別の世界に来てしまったという認識と、乗組員全員が妖精という姿になり。艦長である八咫烏(川嶋正之)は艦息というこの世界にはないイレギュラーな存在として、この世界に放り投げられてしまったことに・・・・・。

第2話

彼こと八咫烏は、かつて飛鷹と隼鷹がいたという世界に飛ばされ。さらに彼女の口からこの世界におけるすべての現状を改めて認識。これ以上、現海域にこのまま留まっても無意味と判断し八咫烏は針路を西へ向けた。

目的地は、現在地から北西約7，600キロ（約4103．8海里）先にある。フィジー共和国ヴァヌアレウ島の東側に位置するナデウ湾に艦を隠匿し、この世界に関する情報を収集することだった目的だった。いずれにしろ。このバカでかい巨大艦が広大な太平洋を下手に彷徨いて。飛鷹が言う艦娘か、深海軍のどちらかに発見され問答無用の攻撃を受けるのは明らかだったので。八咫烏は急遽、副長や各科の長と大まかな打ち合わせを行い。乗員の休息を交代で取りながらこの世界に関する情報や深海凄艦に関する収集を集めつつ、その目的地に向けて航行しつつも時間はあっという間に2日が過ぎた。

八咫烏は、現在フィジー共和国の北東約1400キロの海域を70ノット（時速129．64キロ）の速力でかっ飛ばしていた。仮に八咫烏の速力に追いつく艦がこの世界に存在したとしても、駆逐艦タシュケント（速力：42.5ノット）や駆逐艦島風（速力：40.9ノット）の2隻のみしか存在しない、仮に追いついたとしても4倍近い速力（180ノット）を有する八咫烏には、到底追いつけない。

まぁ、例外は存在する・・・それはすなわち超兵器（規格外）、通称「B．A．F」（※用語①）という非現実的な化け物が存在している。

「なぁ副長、こう静かなのも悪くないが。変えって不気味なくらいだなぁ」

「そうですね艦長。この2日間物理的な接触もなければ、レーダーやソナーにも反応してないですし・・・その前に前方索敵で派遣したRQ―4S（※用語①）を運用している飛行管制室からも連絡なし、可笑しいくらいですね。あぁ～それとC．A．P（戦闘空中哨戒）とS．M．Cからも「異常無し」と報告が入っております」

「・・・・収穫無しか、わかった。ご苦労さん」
元人間だった八咫烏（川嶋正之）は少しばかりため息をしながら悪態をついたが。同じく妖精になった副長や当直班、そして艦娘「飛鷹」・「隼鷹」の二人と航海艦橋でお茶やコーヒーを一緒に嗜みながら、この世界の３日目の朝日を拝んでいた。
他の乗組員たちは艦載機を整備し、当直明けで睡眠を摂っていたり。士官室や兵員食堂、レストス（保）・スペース（養）室等に設置している５０インチの大型テレビでゲームをやっているのも多数おり艦長も時々、自室以外でやっているのを目撃されている。
さらに非番のものは、艦内に備え付けのＢＡＲで酒を飲むという嵐の前の囁かな静けさというものだった…。この艦は建前上、施設軍隊という戦闘艦艇でありながら。一様階級はあるが余り気にしていなく普通なら軍隊・大型商船なら格式があり食堂や風呂・居住区は別になっているが、この艦長は正規軍の出身ではないし。その格式を嫌っていたので、ほとんどの将校や兵と隔てることなく接しているからこそ、部下たちから慕われており全幅の信頼をおいていた。
「なぁ～。本当にこのまま俺が艦長で良かったのか？　いきなり全員の姿かたちは変わって、あまつさえ違う世界に来て、お前らに戦闘を強要しているんだぞ。それでも良かったのか？」
これぱかりは、さすがに艦長自身も負い目を感じていたが、周りにいた者たちは皆一同に笑い出した。そして副長は周りを代表して、艦長にこう伝えた。
「艦長。それは無いですよ、この艦の艦長は最初から川嶋中将（八咫烏）、貴方しかいないんですよ。もし、艦長がいなければ他に誰がやればいいんでしょうか？大丈夫ですよ。この艦の乗組員全員、共に艦長の指揮下で二度の戦争を戦い抜いた者たちばかりです」
その副長の言葉に、周りの者は全員首を縦に振っており。飛鷹（凛）と同じ服装でＳ・Ｍ・Ｃ（※用語①）所属として黒色のジャケットを羽織った航空管制官の一人、隼鷹（翠）（※用語④）がコーヒーカップを片手にこう話してくれた。
「そうだよ！アンタがここの艦長じゃなきゃイヤだもん！」

飛鷹(凛)はその言葉に『・・・もしや』と思って、隼鷹(翠)にこんなことを聞いてみた。
「隼鷹(翠)?それはお酒が飲めないからでしょ?」
そう言われて隼鷹(翠)はそっぽを向きながら苦笑いしつつ・・・こんなことを言い始めた。
「・・・・えっ?何の事だろう。お酒? そんな飲み物、飲んだことないし。知らないよ?ハハハハハ・・・・」
この二人も艦娘という立場に甘えず。それぞれの仕事をこなしているし、さらに二人の夫である八咫烏(川嶋)とはなるべく一緒に過ごせるように、それぞれの長たちが調整と手配してくれていたのを艦長は知っていた。
「そうだな、野暮なことを聞い…」
話を遮るように、航海艦橋に設置されているスピーカーを通してS．M．Cから「ビィィー!!」という警報音と共に音声が流れ込んできた。
「艦橋こちらS．M．C。偵察報告が2つあります。1つ目はソロモン諸島、ガダルカナル島とフロリダ諸島付近の海域に大小の空母42隻、戦艦34隻、巡洋艦95、駆逐艦240隻さらに双胴型航空戦艦18隻と潜水艦60隻を含む大艦隊と80隻規模の輸送船団。ガダルカナル島・マライタ島の2島に、大規模な飛行場を確認出来ました。恐らくこれから先における大規模な攻勢が予想されます。
2つ目はソロモン諸島マキラ島から東、約1200キロの海域で。チューク諸島(トラック諸島)方面から来た艦娘艦隊と深海軍の小競り合いがあったようで、ソロモン諸島方面へ向かおうとしていた艦娘艦隊が結果、全滅に近い損害を出し敗走。またその海域には、現在も数隻の艦艇が航行不能な状態にて漂流し続けています」
その報告を聞いて八咫烏は、折り返しS．M．C管制員に聞いてみた。
「その漂流している艦種は、特定できるか?」
この質問にS．M．Cを統括する戦術戦闘科科長は急遽。これまでの戦闘や存在していた第二次大戦時代から現代艦艇のデータを全

てとS．M．Cのメイン・サーバーに記録されている記録サーバーを検索し。RQ―4Sから発するレーダー波と映像画像から艦名は特定できなくとも、漂流している艦艇艦種の特定は可能だった。
「少々お待ちください・・・出ました！　駆逐艦は夕雲型。巡洋艦は大淀型、古鷹型、高雄型。戦艦は伊勢型の計5隻のみ確認していますが、全艦艇に炎上しているような光景は見受けられず。以上です！」
「了解・・・。さぁて、どうしますかね～本当に」
この八咫烏の言葉に、周りに居た乗員たちは・・・。
「艦長、行きましょう！」
「艦長！」
「正之・・・」
八咫烏は周囲を見据えながら見渡した。彼の顔にはいつになく、彼の眼光には鋭い光を放ち。八咫烏の顔は一瞬、ニヤリと笑った。
「・・・・しがない無法者軍団の頭領だが、たまには綺麗なネェちゃんを助けてもいいと思うがな、ワハハハ！」
そんな様子を見て二人は・・・。
「見掛け倒しだけど、軍人よりか海賊が似合うむさ苦しい集団にしか見えないね」
「そして私たちの旦那様は、海賊の頭領だね」
飛鷹が隼鷹を見て笑い、隼鷹は今の雰囲気を見てツッコミを入れた。
「主なものを至急召集してくれ。作戦会議開くわ」
「了解！」
副長は大急ぎで幹部召集の指示を行ない。飛鷹（凛）と隼鷹（翠）はS．M．Cの通信管制室の赴き、漂流している艦娘と通信によるコンタクトをお願いした。
それから30分後。ブリーティングルームには八咫烏の主な幹部や各科の長が全員揃い終わり。八咫烏は大福顔をした幹部たちを見回して言った。
「我々はこれより。現時刻をもって、艦娘と深海軍の戦争に参戦する！」

これを聞いて、乗員達の心に一瞬で火が着き。全員がこれを待ち望んだかのように、数名は互いに顔を見合わせていた。
「おぉー!・いよいよか」
「腕が鳴るわい」
八咫烏はその前にやるべきことを乗員達に向けて話した。
「その前に!・ソロモン諸島近海にて、漂流中の艦娘たちを救出活動を行ない。その後ソロモン諸島に展開する、深海凄艦を一掃する!」
ブリーティングルームに設置されているテーブルからホログラム映像が出現し。壁に設置れている大型モニターには、現在までに収集済みの情報が開示されており最優先攻撃目標の選出を行っていたが・・・。
ビィィー!・ビィィー!・ビィィー!
突然、警報音が鳴り響き渡り。八咫烏はこの警報音が戦闘用意だと認識し、すぐさま幹部たちに戦闘準備の指示を命じ八咫烏は早足でS・M・Cに赴いた。S・M・Cの一角にある統合戦闘情報センターに到着した八咫烏は、戦術作戦科長秋山少将から状況報告を受けていた。
「状況は?」
「はい、良いニュースと悪いニュースありますが・・・。どちらからお聞きに?」
「悪いニュースから聞こうか」
S・M・C内には、戦闘指揮所だけでも大型スクリーンが前面にだけでも五台され。さらに中型スクリーンも八台設置されている。その大型スクリーンの一台には、どこかの大国が所有していたと思われる偵察衛星を技術情報センター所属のオペレーターが無断借用(ハッキング)という非合法をしていた彼曰く『久しぶりに腕がなります。なにせN・S・A(米国安全保障局)所有のスパイ衛星ですから・・・』。その海域の画像を映し出してくれた。
だけど八咫烏は通信情報長に向けて険しい目つきをしながら睨むと、こちらの意図に気づいて『気にしたら負けです・・・』と言われてしまい。

（このオペレーター。スゴイ場所へ衛星をハッキングしたなぁー、大したもんだよ。だからＣＩＡやモサド（イスラエル）が彼をブラックリスト上位入りしてまでも消（暗）し去（殺）りしたがるわな）

この八咫烏に乗艦している大福顔の情報オペレーターはかつて、世界各国の諜報機関から国際手配を受けていた伝説のハッカーだったが・・・流石に逃げ場がないと理解したのか。彼はある場所に電話をした、他ならぬＡ．Ｏ．Ｓ．Ｃの裏ボスにあたる八咫烏艦長『川嶋正之中将』だった。彼の正体がハッカーだと知っていたが、まさか世界各国の諜報機関から今も追われていることは知らなかったで、彼には申し訳なかったが一度死んでもらう必要があった。後日、偽の戸籍や氏名を変えて情報センター所属・電子技術オペレーターとして八咫烏乗り組んでいた。

「まず本艦の進路上。約７００キロ先、単機にて高度８０００Ｍ上空を飛行中の〈Ｂ―３６Ｊ：ピースメーカー〉がこちらに向かってきております。後７０分ほどで本艦の視認可能距離内に入ります。また、戦艦や空母を含む１４隻前後で編成した。５個艦隊が南太平洋一帯を哨戒警備を行っています。これは先の戦闘における残敵掃討も含まれているかもしれません・・・・。また良いニュースは、漂流している艦娘達とようやく連絡が取れました。通信を試みた凛中佐からの報告によりますと・・・・。『現在は、航空戦艦〈伊勢〉ならび軽巡洋艦〈大淀〉の２隻のみが速力１２ｋｔまでに機関復旧し、残りの艦艇は自沈処分。また両艦共に多数の負傷者を乗船させ、現在バヌアツ共和国エスピリトゥサント島ビック湾に自力退避し。八咫烏の救援を待つ・・・』とのことです」

この報告を聞いて八咫烏はいささか渋い顔付きになり。左脇にいた八咫烏副長〝松田少将〟と今後、あらゆる事態にも対応できるよう話し合っていた。八咫烏は既にエスピリトゥサント島に向けて移動を開始しており、場合によっては戦闘になる可能性も考慮して戦闘準備をさせていた。

「艦長、如何いたしますか？」

「副長・・・。第８教導航空軍司令〝ガーランド中将〟を呼んで来ても

らえるか？」
「ガーランド中将ですか？」
「あぁ・・・、ちょっとばかりこの戦場を引っ掻き回してもらう為にね」
　この八咫烏は面白げにほくそ笑みながら話しているが。副長は何かを察したかのようにマイクに向かって空母航空管制センターにいるガーランドを呼び出した。数分後に彼は統合戦闘情報センターへ姿を現した。
「お呼びですか艦長！」
「ちょいとばかり仕事してもらうよ・・・戦艦、空母を含む１７隻前後で編成した、２個艦隊を大急ぎで殲滅してもらいたい！可能か？」
「分かりました。お任せ下さい！」
　この八咫烏の言葉にガーランド中将はニヤッ・・・と顔を喜ばせ、旱魃入れずに即答した。
「頼むよ・・・」
　その一言だけ話すと八咫烏は、ガーランドに敬礼をし。彼もまた八咫烏に敬礼を返すと空母航空管制センターに戻っていった。その時無人機航空管制センターから連絡が来た。
「偵察飛行中のゴースト１が母艦から５６０キロ先に戦艦２隻、航空戦艦２隻、空母１隻、巡洋艦４隻、駆逐艦８隻の有力な艦隊が毎時２５ノットでエスピリトゥサント島北側１５キロ地点に向けて移動中!!」
「・・・恐らくソロモン海海域の哨戒警備だと思うが、艦娘狩りもありえるなぁ・・・」
「どうします？」
　この副長を言葉聞いて八咫烏は考えた。何しろ後４～５時間の距離にまで狭まっており、このまま先に到着して救助活動をしても深海軍艦隊と鉢合わせする可能性が充分高かった。
「・・・航海長、敵艦隊がエスピリトゥサント島近海に到着するのと。我々とどちらが早い？それと今捕捉した艦隊は、これよりグループＡ（アルファ）として認識する」
「しばしお待ちを」

航海艦橋で指揮を取っていた航海長森下大佐は、艦長から予測データを受け取り急ぎ両艦隊の予測位置を割り出した。
「本艦が先に到着しますが・・・。その８時間後に、敵艦隊と会敵します。会敵予想時刻は１６００時前後と思われます！」
壁に設けられているデジタル時計を見て現在時刻が『０９時２５分』と確認し八咫烏は、Ｓ．Ｍ．Ｃ無人機航空管制センターに聞いてみた・・・。
「先の艦隊の他に、発見できた艦隊はいたか？」
「いえ、まだ発見できておりません」
「発見次第、すぐ教えてくれ！」
「了解！」
八咫烏はここの指揮を秋山少将に委託し、自分は副長と共に航海艦橋へ戻っていき。その後、航海艦橋に到着した直後、八咫烏は近くのドアから左舷ウィングへ向かい、外の景色を見渡しながら視点を見下ろすと、既に左舷側Ｂ飛行甲板には黒色のカラーリングで統一したＳｕ—６０Ω（※用語①）を装備する第４０４戦闘航空旅団所属、第１２戦闘飛行隊（ナイトメア）と。ＡＲ—４０５（重艦上攻撃機）（※用語①）を装備する第４６４戦闘攻撃大隊所属、第１１・１４戦闘攻撃隊（デュランダル・スコーピオン）２個攻撃隊。右舷側Ｃ飛行甲板には洋上迷彩で統一したＳｕ—６０Ωを装備する第４０５戦闘航空旅団所属の第１５戦闘飛行隊（ノーバディ）と、Ｓｕ—４６ＭＦＮ／Ｇ（多用途艦上攻撃機）（※用語①）を装備する第２６１戦闘攻撃大隊所属、第１戦闘攻撃隊（ブラックバード）。さらに航空隊の空中警戒管制を請け負うＰ—１ＡＷＡＣＳ（艦上空中警戒管制機）の１機。第１早期空中警戒完成班セイレーン１がすでに出撃準備を終えており。一部の艦載機は既にリニアカタパルトにセットされていた。その時、無人機航空管制センターから連絡が迷い込んできた。
「偵察飛行中のゴースト２が母艦から西北西７６０キロに。戦艦２隻、空母２隻、巡洋艦８隻、駆逐艦１０隻で編成された有力な艦隊と。さらにニューカレドニア島西部３００キロ洋上を飛行中のゴースト３が戦艦２隻、空母３隻、巡洋艦６隻、駆逐艦８隻で編成された有力な艦隊を捉えました」
「・・・残りの艦隊は、補足できたか？」

「後の2個艦隊は、ソロモン諸島北側と北東側に展開し、哨戒にあたっている模様です」
八咫烏はイヤーマフタイプのヘッドセットを被り直し、各グループの長やS・M・Cを通じて指示を出していった。
「〈ゴースト2〉が発見した艦隊をB（ブラボー）グループ、さらに〈ゴースト3〉が発見した艦隊をC（チャーリー）グループの敵勢力として今後認識する。飛行デッキに待機する航空隊は以下のグループを攻撃してもらう。第11・14戦闘攻撃隊は第12戦闘飛行隊と共にB（ブラボー）グループへ攻撃、第1戦闘攻撃隊は第15戦闘飛行隊と共にC（チャーリー）グループへ攻撃を実施せよ！　本艦は攻撃隊全機発艦完了後と同時に熱光学迷彩を使用し、敵重爆の哨戒飛行を回避しつつ。超伝導電磁推進装置を用いた最大船速でエスピリトゥサント島ビック湾に退避していると思われる艦娘達を救出、その後ソロモン諸島に展開する深海軍艦隊と飛行場、港湾施設に対し攻撃を敢行し。一切合切全て破壊する・・・以上！」
この放送を聞いた瞬間、乗組員たちは一斉に慌ただしく持ち場に付き始めていった。リニアカタパルトにセットされていた艦載機は順序よく標的にむけて発艦し、その後約50分ほどで攻撃隊すべて発艦を完了し八咫烏はその後。まるで何もなかったかのように姿を隠した。

八咫烏という。先程まで2度の世界大戦を戦い抜いて、この平行世界にやって来た八咫烏率いる無法者（アウトロー）傭兵軍団に対し。彼らにとってこの世界を相手に損はない、そしてこの世界に巣喰う深海軍艦隊に先手必勝を仕掛け、敵を討ち滅ぼすのだ!!